# 『敦煌秘笈』羽二八五『法句經并法句經疏』解説と釈文

龍谷大学世界仏教文化研究センター「西域総合研究班」

主任　三谷真澄

研究員　臼田淳三

研究員　古泉圓順

本稿で扱う『佛説法句經』は、敦煌出土写本より大正新脩大蔵経（大正蔵）第八十五巻に録文収載されている典籍である。従って、インドに由来を持つ呉維祇難等訳『法句經』、法炬法立訳『法句譬喩經』とは全く別系統であり、名称は類似しているが、初期仏教の聖典であるパーリ語の『ダンマパダ（*Dhammapada*）』の翻訳ではない。宇井伯壽の『西域仏典の研究～敦煌逸書簡訳』に書き下し文が掲載され、解題もなされている。(1)

田中良昭によれば、全部で一八種の異本があること(2)が明らかにされており、それを整理して列挙する（丸囲数字：通番号は筆者）。

（一）スタイン本

①S.33、②S.837、③S.2021、④S.3968、⑤S.4106、⑥S.4666

（二）ペリオ本

⑦P.ch.2308、⑧P.ch.3922、⑨P.ch.3924

（三）北京本

⑩歳八〇、⑪謄二三、⑫為四五、⑬為四六、⑭露二一、⑮露二四、⑯露一七

（四）個人所有のもの

⑰中村不折氏旧蔵本、⑱李氏鑒氏旧蔵本

以上の異本中、本稿で扱う写本は、⑱に相当し、田中により「存在のみが知られるに過ぎないもの」[3]とされていた資料である。『敦煌遺書総目録索引』に「李氏鑒蔵敦煌写本目録」0447に記載されたもので、一般に李盛鐸旧蔵資料と呼ばれ、後に京都大学の羽田亨氏から杏雨書屋に移管されたものである。

杏雨書屋所蔵の『法句經疏』写本二点（羽二八五、羽七三六）は、田中も指摘する通り、大正蔵八十五巻所収の注釈書（中村不折旧蔵本）とは別系統のもので、従来、録文解説もなされていない。これらは本来一巻であった写本で、巻首に近い方が「羽七三六」（八八行）で、先に『杏雨』に図版と釈文を掲載した[4]。これに続く写本が、本稿で釈文する「羽二八五」（以下秘笈本）であるが、完全には接合せず、欠けている部分がある。巻末まで一一四〇行が残存している。

また、この二点と同じ内容の写本として、P.ch2192（以下P本）があり、経題から巻末までの釈を残すうえ、経題釈の前に序文というべき文章のごく一部も残している。『法句經』の注釈書としては、首部に欠落や破損があるが、ほぼ巻首から残しているので重要なものである。この写本も併せて検討する。

## 解　説

秘笈本とP本の関係についていえば、秘笈本が先にできていてP本は孫以下の写本にあたると考えられる。書体は秘笈本のほうが整う。経文と注釈文の間も二字から六字位を空白とし区別しやすい。制作年代について、羽七三六の解説執筆時には隋末から唐初の写本と記したが、これは誤りであった。田中は、

P二一九二号には、その第一一品に、依他性、真実性という真諦訳に、遍計性という玄奘訳を併用するという微妙な変化をみせている。（中略）この長篇の『法句経』の註釈書の成立時期について推定するならば、六五〇年をそれ程遡らない頃の成立とされる偽作の『法句経』、

（中略）以後の成立であることは勿論であるが、前記用語上の変化からして、真諦訳から玄奘訳が用いられる過渡期、すなわち七世紀後半の成立になるものと考えられ、従来知られた『法句經疏』より以後のものであることが明らかとなったのである。(5)

つまり、「遍計性」の語の使用から玄奘以後の制作であると考えられたのである。これに加えて、玄奘以後を示す根拠としては、秘笈本の欠落部分であるP本の一一一行目に婆伽婆の語を釈して六義を苞含するといい、「第一自在。第二熾盛。第三端嚴。第四名稱。第五吉祥。第六尊貴」を挙げている。この六義は T26n1530『佛地經論』玄奘唐永徽年（六五〇～六五六）訳 p0292a24に薄伽梵の釈として記されている文章「薄伽梵者。謂薄伽聲依六義轉。一自在義。二熾盛義。三端嚴義。四名稱義。五吉祥義。六尊貴義」を参照したと見ることができる。『法句經疏』は七世紀後半の制作で秘笈本は八世紀までに書写されたと考えられる。P本は八世紀後半から九世紀前半の書写である。

二写本の前後関係について、秘笈本を先とする理由は、羽七三六の0025行目に「量?彰」と釈したところは写本に墨付きがあり読めなくなっているが、P本の二三四行目ではこの三字を空白にしている。羽二八五の0222行目は二字が欠けていて読めないが、P本六二〇行目はここも空白である。P本六三四行目も二字の空白があるが、羽二八五の0233行目の欠損部分である。このように秘笈本の欠損部分はP本では空白としている。これはP本が欠損のある本を書写したことを示している。

秘笈本から直接の書写か否かについて言えば、秘笈本に無い字が写されているので直接とは言いにくい。また文字の違いも指摘できるので、孫以下の写本と推定できる。P本は奥書があり「辰年六月十一日勘校了有學者達理而悟道（朱書）」と記されている。田中が辰年を敦煌の吐蕃支配期の辰年（七八八年から八四八年の前後六回）(6)とされることは妥当な判断といえる。このP本の校勘に秘笈本が使われた可能性がある。秘笈本0201行目には「識中無識」の四文字が朱にて書き入れられているが、経本文を記す部分で大正蔵八十五巻の『法句經』には存在しないが、校勘の S.2021には存する文字である。P本では五九五行目に当たり地の文としての書写されており、勘校の時に秘笈本に無いから朱で書き入れたと考えられる。秘笈本から子写本がつくられ、経文には校勘がなされて、孫写本以下がつくられたことを示している。同じことが秘笈本0266行では「阿耨多羅三耨三菩提」の後に朱で「道」の字が書き入れられている。経本文に当たると「道」の字が加わっているし、P本においても「道」の字が書かれている。また、秘笈本二点に欠ける部分もP本では朱字で校勘がなされている。このことから吐蕃期には一巻の書として存在していたと考えられる。秘笈本の朱とP本の朱の科学的分析がなされると興味深い。

『法句經疏』として最初に言うべき問題は経本文において、大正蔵八十五巻の『法句經』（T2901）と出入りがあることである。大正蔵八十五巻で観聲性空證實際品第三の中、p1433上段二十行目の最後「善男子」から上段二十九行目の「虚空無礙」までがこの写本では脱落している。またこの文章については大正蔵八十五巻にいれられている『法句經疏』（T2902）においても注釈がなされていないようである。この部分を書いていない写本の存在が窺える。注の0170に全文を載せている。つぎに、大正蔵八十五巻の『法句經』になくて本写本に記されている文章がある。それは普光問如來慈偈答品第十一の中 p1435上段二十二行目の「云何名爲定」のあとに次の偈文があり、分かれて注釈されている。0878行「若學智慧者。是智尋爲業。從業而有報。是則非相智」0886「智非文字說。亦復非因果」0889「不離是諸法。是名眞智相」五字一句、四句一偈で二偈が注釈されている。この偈文も『法句經疏』（T2902）において注釈がされていない。このことから『法句經』の本文の校訂が促されている。

秘笈本においては注釈をするにあたり他の経論からの引用がある。それらの列挙はすでに田中にP本よりなされているが[7]、書名を本写本の行数とともにここに挙げておく。0328『佛性』云、0510『浄名』云、0538『楞伽經』云、0690『大悲經』云、0692『究竟經』云、0715『無行經』云、0724『大悲經』云、0728『巧拙論』云、0733『優婆塞經』云、0744『涅槃經』云、0748『無行經』云、0771『無行經』云、0839『無行經』云、0860『持心經』云、0880『法性論』云、0892『浄名經』云、0976『涅槃經』云、1089『究竟經』云。以上十八回が書名を記しての引用である。田中の指摘と異なり0733は『優婆塞戒經』ではなく、0880は『法住論』ではない。経論の名を出して引用するも蔵経に当たればそのままの言葉が見つかる場合もあるが、見当たらない引用文もある。また現在では不明になっている経論もある。まず、一致またはほぼ一致する引用が検出できるのは0510、0538、0690、0715、0724、0748、0771、0839、0892の九点である。『浄名』は『維摩詰所說經』鳩摩羅什の訳である。『楞伽經』は『楞伽阿跋多羅寶經』求那跋陀羅の訳、『大悲經』は『究竟大悲經』で訳者不明であり、大正蔵経第八十五巻に入れられている。『無行經』は『諸法無行經』で鳩摩羅什の訳である。他の九点すなわちは『佛性』・『究竟經』二・『巧拙論』・『優婆塞經』・『涅槃經』二・『持心經』・『法性論』は一致の文章を見出せないうえ『巧拙論』・『法性論』にいたっては現存するか否か不明である。

『法性論』について言えば、0814行目の「說諸布施福。於中三事空。究竟不可得。施福如野馬　第七。惣明六度空」からの注釈文に六波羅蜜のそれぞれに論云として、0816「以知法性。無慳恡故。隨分行檀波羅密」、0834「以知法性。離諸過故。隨分行尸波羅蜜」、0842「以知性無瞋恚。故隨分行羼提波羅蜜」、0849「以知法性。常無懈怠。隨分行毘離耶波羅蜜」、0865「以知法性。常無動亂。隨順行禪波羅蜜」、0880案『法性論』云「以智性常

無碍。故隨分行般若波羅蜜」という引用がなされている。この最後が『法性論』からの引用であるという。『法性論』そのものは現存していないが、そのもとになる書物を検索すれば真諦訳の『大乗起信論』に行き当たる。檀波羅蜜から順に次のような文章が出てくる。「以知法性體。無慳貪故。隨順修行檀波羅蜜」「以知法性。無染離五欲過故。隨順修行尸波羅蜜」「以知法性。無苦離瞋惱。故隨順修行羼提波羅蜜」「以知法性無身心相離懈怠故。隨順修行毘梨耶波羅蜜」「以知法性。常定體無亂故。隨順修行禪波羅蜜」「以知法性。體明離無明故。隨順修行般若波羅蜜」明らかに『大乗起信論』の文句を改めたものである。『法性論』は真諦以後の制作でいつ・誰により制作されたか不明である。

『優婆塞經』の引用文も現在では不明といえる。『優婆塞經』は『優婆塞戒經』の略とも受け取れるが『中阿含經』のなかに『優婆塞經』が入れられているのでこちらかも知れない。本写本の引用文はそのどちらにも見当たらないが、写本は明らかに「案『優婆塞經』云」で『優婆塞戒經』とは言っていない。

『佛性』云の引用も真諦訳『佛性論』にはそのままではでてこない。真諦訳をもととしていることは明らかである。それぞれの注記を参照いただきたい。

経云・論云というように書名を記さずに引用しているところを数えれば、五十二回に上る。わかる範囲で検索すれば『維摩詰所說經』・『中論』・『莊子』・『楞伽阿跋多羅宝經』・『諸法無行經』・『大乘起信論』・『金剛般若波羅蜜經』鳩摩羅什訳・『老子』などが指摘できる。しかし、経云・論云と記しているも現在では当てることのできない文章も結構多い。

さらに、注釈文として書かれるも他の書物に見られる言葉もたくさんある。それらを挙げれば『大乘玄論』・『無量壽經優婆提舍願生偈註』・『大般涅槃經後分』・『攝大乘論釋』・『維摩詰所說經』・『景德傳燈錄』・『易經』繫辭傳上・『大乘起信論』・『史記』齊太公世家・『佛說未曾有因緣經』・『維摩羅詰經文疏』・『大品經義疏』・『維摩羅詰經文疏』智顗撰・『法華義疏』吉藏撰・『金剛能斷般若波羅蜜經』笈多訳・『大乘義章』（淨影）遠法師撰・『金剛般若疏』吉藏撰・『華手經』・『大般涅槃經』・『大戴禮』などの書物である。中国の知識人であれば当然知っている言葉が使われている場合もあるだろう。

他にそのままでは経論釈疏に出てこないが現存書物と結びつく語を探れば『妙法蓮華經玄義』天台智者大師説・『法華經論述記』・『中邊分別論』・『攝大乘論釋』真諦訳・『菩薩瓔珞本業經』・『法門名義集』・『大方廣佛華嚴經』佛馱跋陀羅訳・『思益梵天所問經』・『楞伽阿跋多羅寶

經』・『金剛仙論』菩提留支訳・『大品經義疏』吉藏撰・『法華義疏』吉藏撰・『大乘義章』（淨影）遠法師撰などが挙げられる。

引用経論を整理すれば特に多く引かれているのは羅什訳の『維摩詰所說經』である。『法句經』と共通することは他方佛国から娑婆世界に来るという設定である。『維摩詰所說經』では上方香積如来の衆香国より維摩と文殊の対談の場にあらわれ、『法句經』では東方宝相如来の宝土国から親近善知識の法を求めるために来るという。内容的には『維摩詰所說經』は不可思議解脱といい空観の達成を目的とするにたいし、『法句經』では三処（内外中間）の空観を勧める。その点では禅宗系統の書物に入れられる要素がある。ただ三論系の書物の引用が多いように思われる。

本注釈書では経文を十四の品に分けている。品分けのない写本も存在し大正蔵八十五巻所収の『法句經疏』のもととなっている。品次を順次挙げて置けば「寶明菩薩問字品第一」「不壞諸法菩薩說宿緣品第二」「觀聲性空證實際品第三」「觀三處空得菩提品第四」「親近善知識品第五」「二十一種譬喻善知識品第六」「寶明聽衆等悲不自勝品第七」「普光莊嚴菩薩等證信品第八」「煩惱卽菩提品第九」「求善知識不惜內外受命嫌疑品第十」「普光問如來慈偈答品第十一」「卽爲寶明菩薩授記品第十二」「傳持品第十三」「護經如眼寧喪身命不怠品第十四」というように並ぶ。

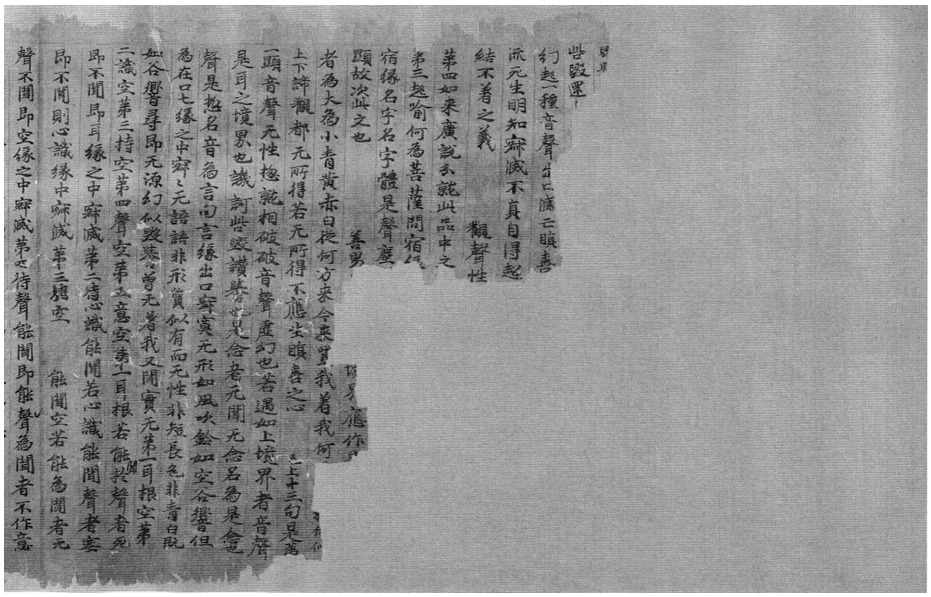
第一の「寶明菩薩問字品」は大正蔵八十五巻所収の『法句經』では、「諸菩薩融心覚序品第一」となっているが、秘笈本と同じ内容のP本では「寶明菩薩問字品第一」と記されていたことは間違いない。しかし、経初におけるいわゆる通序といわれる部分で六事成就が説かれているのみで問字品に当たる言葉は見られない。P本によりて第一の品題の釈をながめると経首において宝明が自己の名を問うことは群機を悟らしめるためで、佛が名を決めることの是非を問うのであり頓教の真実を明かすを願うからであるという。ここに頓教の語があり、この注釈書の立場を示すともいえる。第二品以下は秘笈本にも説かれるところで、第一品に続く理由としては名字の釈を冀い、実理起発の趣を明かさんとする。第三品は名字の体は声であることから音声の体の空なることを明かさんとする。第四品は音声だけでなく三処すなわち十八界すべて空なることを明かさんとする。第五品は十八界の空なることは幽玄で自ら悟ることが難しいので善知識に親近することをすすめる。第六品は善知識に親近するもその功能がわからないので二十一の譬喩でもってそれを示す。第七品は宝明の聴衆が世尊から善知識の恩の厚く深いことを聞いて自己の至らなさを悲嘆することを挙げる。第八品は前品の衆の悲嘆により世尊が地動の相を現じ、威を遠く大千世界に振るい東方宝土国の宝明如来のもとにいる普光荘厳菩薩はじめ大勢の衆とともに、娑婆世界に来て釈迦牟尼仏の説法を聞き、信を証することを述べる。第九品には煩悩は定慧の

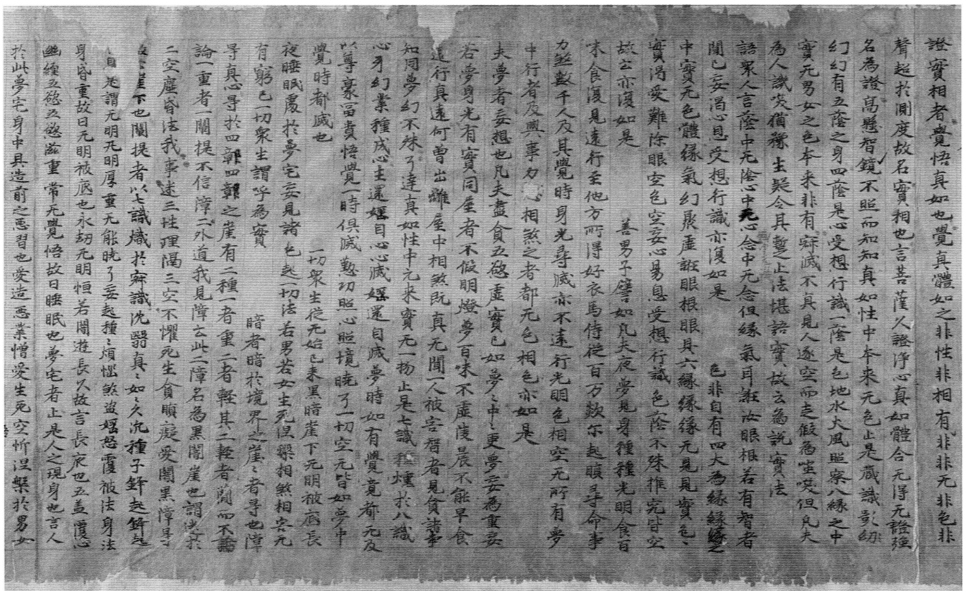
力により三処の空を知り全てが道になることを説く。第十品は前品をうけて身を軽んじ法を重くするべきこと顕す。第十一品は第五品より以来学ぶ者をして身命をすてて善知識を求めさせるため、普光菩薩が世尊の説くところをもう一度と願い、世尊は偈でもって説かれたことを示す。第十二品は宝明菩薩がすでに心が聖道に叶い授記を得ること明かす。第十三品は代代に伝わることをいい、第十四品は経を護ること眼を守るようにし身命を喪うとも懈怠なくせよと説く。

内容的には虚通無碍を説き何物にも妨げられなく、何物をも妨げない在り方を理想としている。そのために三処の空を証せよという。三処を説くに内外中間といい、内外能所とも言う。人法能所の語は羽七三六にでる。根塵識の十八界においては、根を内身・塵を外境・識を中間とする解釈である。三処共に空であり、元来不生不滅との観を得て、さらに空も亦空とす。空を知るも亦空であり、空空亦空の境地に至れば、自然にすべてのものから解放されて悟りを得る。

**註**

（1）宇井伯壽『西域仏典の研究～敦煌逸書簡訳』一九六九、岩波書店
（2）田中良昭「偽作の法句経と疏の異本について」『印度学仏教学研究』二三巻一号、一九七四、一二三～一二五頁。
（3）田中前掲論文一二五頁。
（4）臼田淳三「敦煌秘笈羽736『佛説法句経疏』解説と釈文」『杏雨』（武田科学振興財団杏雨書屋）第二十三号、二〇二〇、一五五～一六四頁。
（5）田中前掲論文一二九頁。
（6）田中前掲論文一二八頁。
（7）田中前掲論文一二九頁。





羽二八五「武田科学振興財団　杏雨書屋所蔵」

（注）武田科学振興財団『杏雨書屋蔵　敦煌秘笈　影片冊四』、二〇一一年、二六八頁下（上）、二七二頁上（下）。

# 釈　文

## 釈文凡例

一、『法句經』本文は**太字**にし、「　」で括り、大正蔵八十五巻の頁・段・行を加える。

一、釈文中の主題となる本文も**太字**にし、「　」で括る。

一、＊印は註記の存在を表す。

一、朱の○や・があるが注記しない。

一、『法句經』以外の経や論の引用文は「　」で括る。

一、補い部分に記号〔　〕を入れる。記号（〔）のみの場合は、下部が欠損していることを示し、記号（〕）のみの場合は、上部が欠損していることを示す。

一、欠損部は、P本（P.ch.2192）により補う。

一、推定文字は□で囲む。

0001 毀譽*〔根本止是。口内七縁。縁縁出口。卽無瞋喜。憑何取實。癡心計作
0002 呰毀還〔自慢起。瞋心計作。毀譽還自。虚生喜悦。覆推瞋喜。縁内
0003 幻起一種音聲。田口滅亡。瞋喜〔宜應。卽滅如何。執爲善惡。妄着漂
0004 流死生。明知寂滅。不眞自得。超〔然解脱。此九句顯。名字善惡。俱無惱
0005 結不着之義。　1432c08
「觀聲性〔空證實際品第三」
0006 第四。如來廣説分。就此品中。文〔有三意。第一。顯音聲無性。第二顯果。
0007 第三起喩。何爲菩薩問宿緣〔品後。有此品來。爲前章爲菩薩問

宿緣名字。名字體是聲塵。〔此章明音聲性空。義理必然。相待對之。
顯。故次此文也。1432c09「善男〔子。若遇如上〕境界。應作〔是念。此音聲
者。爲大*爲小。青黃赤白。從何方來。令來熏我。着我何〔處。形〕相何似。
上下諦觀。都無所得。若無所得。不應生*瞋喜之心」已上十三句。是第
一。顯音聲無性。惣就相破。破音聲虛幻也。「若遇如上境界」者。音聲
是耳之境界也。譏訶呰毀讃譽也。「是念」者。無聞無念。名爲是念也。
「聲」是惣名。「音」爲言句。言緣出口。寂寞無形。如風吹鈴。如空谷響。但
爲在口。七緣之中。寂寂無語。語非形質。似有而無。性非短長。色非青白。既
如谷響。尋卽無源。幻似毀譽。曾無着我。又聞實無。第一耳根空。第
二識空。第三持空。第四聲空。第五意空。第一耳根。若能聞於聲者。死
卽不聞。卽耳緣之中寂滅。第二待心識能聞。若心識能聞聲者。塞
卽不聞。則心識緣中寂滅。第三持空能聞。空若能爲聞者。無
聲不聞。卽空緣之中寂滅。第四待聲能聞。卽聲能爲聞者。不作意
不聞。卽聲緣之中寂滅。第五待意得聞。意若能爲聞者。闕前
四緣。意亦不聞。卽意緣之中寂滅。就此五緣之中。實無能聞之實。
外語卽七緣。無語外無音聲可聽。內耳卽五緣。無聞內無能聞可受。
內外俱寂。其心自清淨。清淨虛無。何嗔何喜。諦觀上下。內外中間。寂
滅無爲。用而常寂。經*云「其說者。無說無示。其聽者。無聞無得」卽耳聞
聲。是道場。是天耳通之因。1432c12「作是觀已。堅持不捨。當知不久得。阿耨多
羅三藐三菩提。何以故。觀音聲性空。證於如故」「作此觀」者。

前觀也。「**堅持不捨**」者。心無妄念也。「**當知不久得。阿耨多羅三藐三菩提**」者。梵言。此地翻名。無上正眞道也。明證果者。止爲心冥。前觀無聞無爲。當知不久當得。無上正眞道果也。何以故。觀音聲性空。證於如故前觀。觀音聲三處。三處虛無。內外既空。中間亦寂。寂卽不寂。目之爲如。如之不如。故言空證。「**譬如有人。夜想飛空。及其睡時。見身飛行。菩薩摩訶薩。亦復如是。觀音*聲性空。必得空證**」1432c14

夢者想也。病從想成。還從想滅。譬如有人。厭身麁重。晝想飛空。睡夢飛行。想非非應。菩薩體識。音聲如夢。譽毀不眞。口會七緣。緣無實體。既非生非滅。無是無非。寂滅無爲。浩然虛淨。熟斯空想。心還證空。故言。觀音聲空。必得空證。此八句將夢喩。以結空義。「**乃知音聲。但詑耳根。如無實體**」1432c16　「**觀三處空得菩提品第四**」1432c18

比見學者。直解如是一時四字。語則十紙五紙。廣列燻脩。體性開合。異同競數。多門謗辭。鋒起無異。獼猴數於「體－豊＋孝」孔。轉轉不窮。覆去翻來。言無盡日。直是外論閑事。內疾不治。此等偏對鈍根。理乖八字。使脩學者。垢心難淨。妄想不除。今入此巧度門中。意則不爾。直令於此五蔭。現身之上。根塵十八之中。三處觀空。內外俱寂。知寂亦遣。能遣亦虛。境智俱空。虛通不滯。故寂而常動。無爲而能涉。事動而常寂。事乃不亂無爲。此則無爲則爲。爲則無爲。豈假廣門。名數之繁華。薄謗詞之滯。以斯義故。音聲品後。有此品來矣。前品爲聖凡。名字悉是音聲。音聲既空。名字非有。今此品之內。惣明身根。五蔭

四大。根塵十八之界。性相皆空。就此品中。文爲五意。第一令常觀三處。心境俱亡。第二明眼等六根。根根不實。第三明六塵虛幻。塵塵不眞。第四明五蔭空花。蔭蔭非有。第五汎爲廣喩。究竟虛無。極要極眞。無過此品。假使多牽諸論。門戸繁華終是。外見悠悠。非是切要。切要之實。此觀爲眞。直觀三處眞空。菩提可證。莫不三身。俱辯應化。影成頓教。直言斯爲彼矣。

1432c19 「**善男子。菩薩摩訶薩。欲得阿耨多羅三藐三菩提者。當觀三處。何*謂三處。內外中間。是爲三處。於三處中。無有實法。卽爲解脫。解脫者。卽菩提也**」　第一。言「三處」者。六根爲内身相空。六塵爲外境色空。六識爲中間分別空。幻合假有。由如水月。若覓心照本。一一推之。本來不生。今亦無滅。既無生無滅。性自虛通。虛通無碍。名爲解脫。解脫之理爲菩提。

1432c22 「**寶明菩薩。白佛言。世尊。三處觀者。爲何謂也**」　菩薩既聞。三處要觀。欣其至眞。情求利物。慇然白佛。佇聞金口。希聲妙說。

1432c23 「**佛告寶明菩薩*。善男子。欲知三處。當脩身觀。眼卽爲内。色卽爲外。心處中間。是爲三處**」　「**脩身觀**」者。脩法身之觀也。觀身是空。五蔭虛假。身相既空。眼無存處。既無存處。眼非實有。不能辯色。恒自外觀。外觀是空。積微而成。緣散而滅。色性自空。非色滅空。無情無記。夢時如有。覺竟都無。不能從眼。眼恒自内。内外俱空。心無所倚。無倚無着。性自虛通。虛通無碍。故爲解脫。既照身心惣幻。能照亦空。知空亦空。心口俱喪。運運虛寂。法身之因。因契法身。故當脩身觀

也。1432c25「或有衆生。從無始已來」「衆生」者。受終多生死。故曰衆生。生死超於劫數。無知本始。故云。無始以來。1432c25「不知三事。虛之與實。妄起種種煩惱顚倒或」無而執有。謂之爲顚。逐妄迷眞。謂之爲倒。或倒之塗。不觀三處。虛之與實。實無有人。而起人想。實無有我。而起我想。人我見成。躭貪色境。愛取有生。卽生貪毒。貪毒有違。卽生瞋毒。瞋毒日增。卽生癡毒。三毒俱造。沒溺三塗。如旋火輪。不能暫息。是以慈父。將絶其根本。示其要眞。要眞之要。令觀三處。三處證空。自然無繫。無繫無生。報形絶矣。1432c26「是以我今。教如實觀。令斷諸或」「如實」者。眞如之觀也。眞如卽體離有無。聖凡之本也。言蒼生。棄本流末。燻於淨識之中。燻成子種。種子牙開。幻有五蔭。五蔭爲身。根塵十八。中間內外。取捨依地。三界業成。種子沒於生死。今卽令觀。三處皆空。源來不生。今亦不滅。浮雲陽炎。究竟不眞。能觀亦虛。故名斷或。卽眞如顯現。故名如實。如實不生。出於生滅。生滅報斷。汎然常樂矣。1432c27「善男子。眼不自見。色不自名。心無形質。三事俱無。是故眼不自見。常處於內。色不自名。常處於外。心無形質*。處無所在」眼屬衆緣。內外無能自見。自見能者。卽眼［睦－圭＋羊］睫內翳。精之大小。不自鑒知。自見不成。那能見物。止是五緣和合。假得見名緣。緣緣之中。悉無能見之實。誰能見色。卽常處於內。「色不自名」者。色性無知。無情無識。因眼分別。與色爲名。眼既自空。作名何實。故常處於外。心依眼色。分別去來。眼色悉空。何來何去。無倚無着。故言。處無

所在也。1432c29「善男子。眼不自見。屬諸因緣。緣非見性。眼卽是空」此五句。重破内空也。但不自見。止是六緣和合。假有見名。推究一一緣中。實無能見。其六緣者。第一眼根。第二眼識。第三空。第四明。第五色。第六意。第一眼根。定若能爲見者。死卽不見。卽眼緣之中寂滅矣。第二必待識能見。識若定能爲見者。障卽不見。卽識緣之中。寂滅無見矣。第三必待空能見。空卽定是能爲見者。夜卽不見。卽空緣之中。寂滅無見。第四必待得明見。明卽定是能爲見者。無色不見。卽明緣之中。寂滅無見。第五必待色能見。色卽能爲見者。不作意不見。卽色緣之中。寂滅無見。第六必待意能見。意卽能爲見者。無前五緣。意亦不見。卽意緣之中。寂滅無見。當知六緣之中。緣緣無見。故云。緣非見性。眼卽是空。行者眼雖見色。恒爲此觀。卽終日見。不乖於無見。無聞無斷。能觀亦亡。故名入光明三昧。卽眼見色是道場。爲天法眼之因。1433a02「色屬眼時。名色爲色。若眼性空。色亦無實。何以故。從空眼見。體無實故」此七句者。破於外空也。譬如人造築舍宅。借倩無情相助。無情之物。能爲助者。無有是處。亦如一切衆色。各各無識無情。籍眼見緣與色。爲名爲字。眼既自空。色名終無有實。由如壓沙求汁。究竟無油出也。1433a03「善男子。菩薩摩訶薩。知眼是空。於内無染。知色是空。於外無著。識心是空。滅於諸行」此八句。破中間空。明智淨也。知眼籍緣。緣無見性。眼卽是空。内無可染。色性虚假。積微而成。微散而滅。其性自空。非色滅空。無外可着。内外無着。心自清淨無爲。滅於諸行。地獄行滅。無地獄報。畜生行滅。無畜生報。人天行滅。無人天報。聲聞緣覺行滅。

無聲聞緣覺報。及至菩薩智德。寂滅無爲。超然出纏。法身虛淨。故偈*

云「諸行無常。是生滅法。生滅滅已。寂滅爲樂」 1433a05「**耳鼻舌身意。亦復如是**」 六根緣假。依託身根。身根既空。六根焉有。知眼色無實。故言。亦復如是。 1433a06「**善男子。知眼屬緣。見無自性。眼終日見。由*爲無見**」此五句。 明*內用。不乖於寂也。行者心無間念。卽眼雖見色明。觀六緣之中。實無能見。是名無見。非謂滅見同盲。始爲無見。爲眼色俱空。因亡果喪。亦未曾見。未曾不見。是以終日見。不乖於無見。不乖於有見。故論*云「是眼卽不能。自見其己體。若不能自見。云何見餘物」 1433a07「**色性屬眼。而不自名。名終日名。由*爲無名**」 此四句。明外用。不乖於寂也。行者常觀。色緣幻聚。眼爲作名。眼見自空。空何能實。常觀無體。雖名不名。亦未曾名。未曾不名。故稱無名。 1433a08「**善男子。以斯空眼。常看空色。內外遍觀。心不可得。常求諸色。而不可滿**」 此七句。重戒也。眼有色有。取捨難停。眼空色空。是非異息。心無境滅。性自虛通。如風吹空。空無可染。如何不觀常淨。愛着無厭。常求諸色。如不可滿。此重難也。 1433a09「**耳聲鼻香舌味身觸意法。亦復如是**」 此五句。對根塵。亦如眼色不實。故言。亦復如是。恐初學之徒。觀行生澁。今就根塵。惣破分明。委的可知。卽宜身上。現行次第。看文入觀。但眼色耳聲。前文已釋。次「**鼻香**」其緣有五。第一鼻根。第二鼻識。第三鼻空。第四香塵。第五作意。第一若鼻根。能聞香者。死何不聞。則鼻緣之中寂滅矣。第二待識能聞。識若能爲聞者。塞卽不聞。則識緣之中寂滅。第三待空能聞。空若能爲聞者。無香不聞。則空

0128 緣之中寂滅。第四待香能聞。香卽能爲聞者。不作意不聞。則香緣之中寂
0129 滅。第五待意能聞。意若能爲聞者。無前四緣。意亦不聞。卽意緣之中
0130 寂滅。當知五緣之中。緣緣寂滅。一無聞香之實。常爲此觀。能所俱亡。卽終日
0131 聞香。不乖無聞。所以借風爲喩。經過鼻處。假名鼻風。經過香處。假名香
0132 風。故體香鼻一如。非有非無。因亡果喪。卽鼻鼻香時是道場。名入香積三
0133 昧。卽天鼻通因也。次明「**舌味**」者。但舌具五緣。五緣無能了味。第一舌根。第
0134 二舌識。第三舌津液。第四味塵。第五作意。第一舌根。能爲了味者。乾卽不
0135 能。第二舌識。能爲了味者。乾亦不能。第三待津孔濕液。能爲了味者。無
0136 味塵不能。第四待味爲能。味若能爲自了者。不作意不能。第五待意而能。
0137 意若能爲了味者。無前四緣。意亦不能。當知五緣之中。緣緣悉無。了味爲
0138 因。性是空果終非有。能所俱寂。卽終日了味。不乖無了。分別亦幻。如此食
0139 者。非有煩惱。非離煩惱。非入定意。非起定意。卽舌了味時是道場。
0140 此名入喜根三昧。爲天舌通因也。次明「**身觸**」觸具三緣。緣緣無觸。第一身根。第
0141 二身識。第三外塵。第一身根。能受觸者。死卽不能。卽身根寂滅無受。第
0142 二待識爲能識。若*能識。若能識爲受觸者。死外塵來擊不能。卽識緣
0143 之中。寂滅無受。第三待塵擊爲能塵。擊能爲受觸者。無前二緣。塵
0144 亦不能。卽塵擊之中寂滅。卽三緣之中。緣緣不能受觸。其卽不在內。不在
0145 外。不中間。三受如泡。各無分別。無定無亂。卽終日受觸。不乖於無受。不乖於
0146 有受。卽能所俱空。故云。身受觸時。如智證卽身。受觸是道場。此名入
0147 智明三昧。爲天身通因也。次明「**意法**」意者心之內用也。卽却照意根。卽

0148 非無非有。第六妄起。和合五根。名爲意識。識妄取境。名爲法塵。法塵之
0149 體。起自人法。五蔭五塵。十八根幻有。一切諸法。乃至三界。器世界等。悉皆虛
0150 假。虛假之性。元來不生。令亦不滅。無自性無他性。無動無作。無淨無亂。浮雲
0151 陽炎。究竟不眞。性相如如。冥於實際。終日知法。不乖不知法。亦無知知。無
0152 不知。卽言語道斷。心行處滅。故經*云「知諸法如幻相」卽意知法是道場。
0153 名了法三昧。爲天心通因也。其五對根塵。虛幻悉如眼。故云。亦復如是。夫
0154 道場者。是處義也。對於大小二基。處有其二。一者心。二者相。其相道場
0155 者。接引下基。於淨室之中。懸幡設像。香花梵詠。禮拜旋行。此等起發
0156 初心。非爲究竟。其心道場者。義屬上機。名爲了教。知心爲万法之本。直
0157 淨其心。境智恒清。不聞於事。直於此五蔭。身心之上。根塵十八之中。動止施爲一
0158 如。前觀淨穢非淨穢。是非無是非。涅槃非涅槃。則煩惱非煩惱。乃
0159 至貪癡執愛。瞋喜違順。坐臥去來。飲食便利。悉以觀智推之。無絲
0160 豪可得。寂滅無性。體自涅槃。若起毛髮有心。則輪廻三界。無間無妄。所
0161 過之處。皆是道場。故經*云「當知擧足下足。皆從道場來」「復*次善男子。應 1433a10
0162 作是念。若眼與色。非爲空者」 此三句。重明前義。
0163 1433a11 「眼住於內。不應辯外。色住於外。不應從眼。眼是有住。色亦有住。心是無爲。
0164 不應在有。何以故。有之與無。性相違故。是故當知。眼色與心。虛通無碍」
0165 此十三句。惣結成三處觀義也。眼無作見。色滅自安。緣合幻有。緣散而
0166 無。體非有無。而無而有。有無雙寂。虛通無碍。眞爲淨眼。色亦如是。
0167 色性自空。作爲從眼。幻聚如有。幻滅如無。性非有無。如無如有。有

0168 無不滯。虛通無碍。眞爲淨色。心亦如是。若心無境有。無有相違。心無境
0169 無。無爲無碍。莫不眞如。體合能所清虛。法身之證。顯然無碍之通
0170 煥耳。　＊　1433a29「譬如陽炎。遠看*似水。無智之人。爲渴*所逼。急*向之
0171 走。轉近轉滅」　此六句。起譬以成。空幻義也。「陽炎」者。遊氣也。亦
0172 謂野馬。陽春之地。初發生之始氣也。「遠看似水」就視卽無也。明食莫若
0173 者。鑒空裏而爲花。渴迷盛者。覩陽炎而成水。貪水喩渴。走而向水。而
0174 水轉無。貪色欲情。照色空而色滅。初陳假喩。理被後云者矣。
0175 1433b02「炎邊住者。知此地中。本來無水。見彼走人。知其妄想*。便生嗤咲」
0176 此五句。明得道者之知幻也。「炎邊住」者。明菩薩住。眞如心地邊。明知眞如。地
0177 中從來無法。知衆生妄執漂流。卽令學者。直淨於心。不隨於事。故經*云
0178 「二乘凡夫。如犬逐塊。但知齧塊。不解齧人。不知塊從人發」亦如二乘逐法。不
0179 解自制於心。不知法皆從心起。凡夫貪色。不知色從蔭生。菩薩摧爲嗤咲。
0180 意欲挫疑。妄心走塵。望其住想。不走分明。語其眞實。必使覺塵。如
0181 炎安於不走不貪。　1433b03「語走人言」一切心外見法者。皆爲走人也。
0182 1433b03「此中無水。但陽氣耳。誑汝眼根。彼人聞已。熱渴心息」　智*者語曰「心外
0183 無法。但妄想耳」皆是五緣和合。誑汝心眼之根。緣中無實。見爲虛妄。見
0184 心無息渴愛。渴愛不生。不生自安於內矣。　1433b04「色亦如是」
0185 色由眼見。愛色不窮。眼既自空。愛終無實。色性自空。非色滅空。空無
0186 逐眼。自安於安。　1433b05「凡夫無智。謂呼有實。爲欲渴所逼。生貪求想*。
0187 熾然起心。趣向奔走」　此六句。顯凡夫。內無正智。外見色有。不知自

心。妄生呼色有實。注心逐欲。無能少停。由如火處草中。草乾然熾。渴
飲醎水。醎益渴多。愛染貪求。不能休息。不知自心。夢色愛色。還婬自心。
心心愛夢。不停忽忽。故名長夜。不夜不知。心滅色滅。安然不想。不想不婬。
1433b06
「色相因緣*。轉觀轉滅」　五蔭爲因。五塵爲緣。合成幻有。由如聚沫。
細推一一。緣中悉無。色實推求。性相卽體皆空。空緣旣滅。終無愛着。自此
已。顯有智者。悲歎迷人。
1433b07
「證實相者。知此蔭中。本來無色。本來
無識。見凡夫人。貪色疾走。知其妄想。便生嗤咲。爲説實法」
「證實相」者。覺悟眞如也。覺眞體如之。非性非相。非有非無。非色非
聲。超於測度。故名實相也。言菩薩久證淨心。眞如體合。無得無證。強
名爲證。高懸鏡智。不照而知。知眞如性中。本來無色。止是藏識影
幻。幻有五蔭之身。四蔭是心。受想行識。一蔭是色。地水火風。照察八緣之中。
實無男女之色。本來非有。寂滅不眞。見人逐空而走。假爲嗤咲。但凡夫
爲人譏咲。猶豫生疑。令其暫止。法堪語實。故云。爲説實法。
1433b09
「語衆人言。蔭中無陰。心中無心。識*中無識。念中無念。但緣氣耳。誑汝眼根。若有智者。
聞已妄渴心息。受*想行識。亦復如是」　色非自有。四大爲緣。緣緣之
中。實無色體。緣氣幻聚。虛誑眼根。眼具六緣。緣緣無見。見實色
實。渴愛難除。眼空色空。妄心易息。「受想行識」色蔭不殊。推究皆空。
1433b11
故云。亦復如是。「善男子。譬如凡夫。夜夢見身。種種光明。食百
味食。復見遠行。至他方所。得好衣馬。侍從百万*。欻爾起瞋。尋命事
力。殺數千人。及其覺時。身光尋滅。亦不遠行。光明色相。空無所有。夢

中行者。及與事力。相殺之者。都無色相。色亦如是」

夫「夢」者妄想也。凡夫盡貪。五慾虛實。已如夢中。夢中更夢。妄爲重妄。若夢身光有實。同屋者不假明燈。夢百味不虛。陵晨不能早食。遠行眞遠。何曾出離。屋中相殺。既眞無聞。一人被害。智者見貪。諸事知同。夢幻不殊。了達眞如。性中元來。實無一物。止是七識。燻於八識心牙。幻業種成。心生還婬。自心心滅。婬還自滅。夢時如有。覺竟都無。及以尊豪富貴悟覺。一時俱滅。勲功照心照境。曉了一切空無。皆如夢中。覺時都滅也。

「一切衆生。從無始已來。黑暗崖下。無明被底。長夜睡眠。處於夢宅。妄見諸色。起一切法。若男若女。生死涅槃。相殺相害。無有窮已。一切衆生。謂呼爲實」

「暗」者。暗於境界之崖。「崖」者碍也。障碍眞心。碍於四障。四障之崖。有二種。一者重。二者輕。其二輕者。簡而不論。一重者。一闡提不信障。二外道我見障。云此二障。名爲黑闇崖也。謂迷於二空。塵昏法我。事迷三性。理隔三空。不懼死生。貪瞋癡愛。闇黑障碍。故云崖下也。闡提者。以七識熾於寂識。沈翳眞如。眞如久沈。種子鋒起。鋒起□*□。是謂無明。無明厚重。無能曉了。妄起種種煩惱。殺盜婬怒。覆被法身。法身昏重。故曰。無明被底也。永劫無明恒。若闇遊長久。故言。長夜也。五蓋覆心。幽纏五慾。五慾滋重。常無覺悟。故曰。睡眠也。「夢宅」者。止是人之現身也。言人於此夢宅身中。具造前之惡習也。愛造惡業。憎愛生死。空忻涅槃。於男女之色。「相殺相害」累劫不窮。種子堅牢。永無智照之力。不悟万法虛無。躭貪深重呼爲實。故致如然也。

「得道覺者。乃知虛妄。始知生死。同涅槃

相」　「得道覺」者。謂出於眠夢也。了知性中。本來清淨。實無
生滅。但以衆生。燻脩業力。夢五蔭之形。夢謂之生。夢謂之滅。若得覺悟。
始知元來。不生不滅。性自涅槃。涅槃非有。寄言詮釋。「涅」者滅也。「槃」者生
也。雖滅不滅。謂之爲涅。於生不生。謂之爲槃。故涅而不死。槃而不生。生死
涅槃。寂然同性。故云。始知生死。同涅槃相也。言三大僧祇脩成者。是漸教。
＊」證說也。　1433b21「男女諸色。本性體空。善男子。若色如是。一切諸法。
亦復如是」　此六句。惣結前義。非但破男女色。空亦顯一切万法。皆
空淨也。次陳八解。喩明以成於空義。前六句。明幻有而無。後二句。明幻無而
似有。雖復破通万法。仍自數對。五蔭八緣也。　1433b22「如空谷嚮」
第一句。先破前受記。音聲名字。瞋喜俱空也。夫山谷者。幻聚四塵。悉無情
無記。空而響應。應而非實也。人之形骸。亦四塵成之。髑髏如山。耳空如谷。
亦空而響應。應亦非眞。非有一種。悉無眞體也。但谷中之響。響似有而非
言。口出七緣。緣似說而非語。如何屢聞谷響。聞恒不發喜瞋。一聽口聲。聽
用卽生瞋喜。當由智迷聲境。妄識虛生。是非不照。音聲性根。二響悉非
眞實。乃至一切語言名字。是非瞋喜讚譽。明知寂滅不眞。自得聲塵解
脫。　1433b23*「如芭椒堅」　此二句。破蔭身空。夫身空者。妄心所生。五蔭
所成。蔭覆眞如。無明行起。燻成幻宅。假謂爲身。推鞫一一緣中。一無身實。方茲
芭椒。撤去葉而樹空。譬此虛身。散五蔭而身滅。如何計身。爲實我人。人病
不除。體幻如泡。人我之迷自釋。　1433b23「如水中月」　此第三句。明壯年不久常也。夫人
之處代。猶如月落水中。物壯必衰。月盈還欠。若風収水靜。影盛圓明。水動風

0248 張。影昏如劣。衆生業風。未滅色盛圓。強業動風。推相衰形劣。盛衰無定。改
0249 變須臾。1433b23「如空中花」此第四句。破見色空。夫莫若燻心。見針花於空
0250 内。無明覆識。觀万法於有心。莫若息而花空。無明去而見滅。雖復眼縁諧六。
0251 縁縁之内。見虚万境塵空。塵塵之中。俱幻反照。境塵虚假。分別自空。境智無生。空縁
0252 花永寂。1433b23「如石女兒」此第五句。明生處空。言「石女」形同女像。似有
0253 生子之縁。實則不生。能生之縁無定。當知地水火風之母。蔭蔭之内。無生推求。
0254 一切因縁。石女之生無別生。如夢有覺竟都無。1433b24「如電久住」
0255 此第六句。明無常空。夫電光生滅。存亡閃燦之間。人世無常。催促一生之内。如何不
0256 驚二鼠。恃此坏瓶。造作有爲。妄疑長久。明此現身賒促。何殊琢石之明。閃
0257 有還無。無異電光之速。幻生幻滅。苦受須臾。1433b24「如水龜毛」
0258 此第七句。明心相空。言「龜」於水内。生毛之相。不期心處藏中。生法之眞非實。妄
0259 疑心有。是非之見不窮。却照心空。取捨之情自息。是知心滅法滅。心生法生。心
0260 滅境除。境亡心淨。淨亦不淨。忘而不忘。不淨不忘。冥超四説。離於測度。究竟
0261 空無。1433b24「如走菟角。究竟無實」此第八句。明識空。夫觀菟野之走。
0262 實無生角之期。觀識走塵。終無了別之實名。雖六七俱。從八藏而了照。八空六
0263 七之名。無所寂滅。無性幻起如風。心無所心。識何所識。莫不境智。雙遣心識兩
0264 亡。亡之又亡。出於分別。言語道斷。清照法身。究竟虚無。宵然常淨。
0265 已前八喩。惣明万法一空。之理一如。1433b25「諸有智者。應除諸見。如世生盲。
0266 莫分別色。若不分別。當知不久得。阿耨多羅。三藐三菩提道*」
0267 此八句者。惣結前之八喩。究竟空無。空無亦空。明其入果也。「諸見」者。謂九十六

0268 種。六十二見。及斷常中邊。一切諸見也。此諸見等。皆能障於慧眼。悉是根塵。
0269 幻合虛誑。心眼之根。妄稱爲見。觀照根塵悉空。見實無見。見實無見。能
0270 所俱亡。雖是其空。無妨假用。假用之用。用非其常。常非其常。是有爲無
0271 有爲。無者是不無之無。不無之無。無非是斷。爲斷常雙離。不滯一中。內外
0272 鏡清。不緣而照。是以終日見。不乖於無見。不乖於有見。亦未曾不見。非是
0273 滅見同盲。始云無見。不同外道諸見。見病居心。發言成到。所盲者盲於
0274 分別。盲其無絲髮。無能見之心。無生亦無。出於限量。虛通無碍。果用不窮。
0275 故云。不久得。阿耨多羅。三藐三菩提。
0276 1433b27* 「善男子。一切衆生。爲諸煩惱。蔽於慧目。*無眼生眼相。以斯妄想。*見外境界。
0277 名之爲色。如起貪着」　此義前文已釋。　1433b29 「以貪着故。流轉三
0278 有。如旋火輪。無有休已*」　此十三句。惣明凡夫執着。無明業成。輪廻
0279 生死之義也。明凡夫爲無明蔽。不了身空。見身實想。迷於眼空。生眼實
0280 想。不了塵空。生實色想。執三處俱實。名爲境界。種子鋒起。取捨貪求。
0281 愛着無厭。卽生貪毒。貪得爲順。不得爲違。卽生瞋毒。瞋毒猛威。燒於
0282 智慧。慈善之根。爲一切惡業。卽生癡毒。三毒備造。沒溺三塗。三界輪廻。故言。
0283 三有也。重者地獄。餓鬼畜生。輕者欲界色界。無色界天居。由如火宅。有身
0284 皆苦。無得暫安。亦如火處輪中。四邊皆熱。故言。如旋火輪。又如人以手掉火。
0285 旋火如輪。手住火亡。火輪空滅。如人妄心逐境。生滅不窮。心滅境無。死生常
0286 息。報業兩斷。涉無爲也。　1433c02 「親近善知識品第五」*
0287 第五惣六章。明證信分。何爲三處觀後。有此品來者。爲前品令觀三處。中會

眞如。惣明十八界。性根塵五蔭。空於色智。其理幽玄。不可輒悟。自非善知
識。諳知無由。得程津路。是故勸令。親近知識。有此品來。就此品之中。惣二十五句。
義開三分。第一勸親近善友。第二明請決。第三世尊爲説。
1433c03
「**善男子。一切衆生。欲得阿耨多羅。三藐三菩提者。當親近善知識**」
此五句。如來切勸也。「**善**」者對惡名善。善*乃無窮。要而言之。不出二種。一者有爲善。
二無爲善。其有爲善者。明有脩有得。不知眞如涅槃。寂然空淨。堅持小善。
分別是非。觸事有爲。終纏有漏。非識有識。非知強知。妄識妄知。無能利物。
其無爲善者。無脩無得。知眞如涅槃。普遍一切了達。根塵虛幻。直淨其心。道場
煩惱。如如一體。方諸懸鏡。不照而知。譬彼虛舟。不緣而濟。智能自利。悲能
利他。自利利他。識心知病。一一曉物。方便無窮。不濫基根。拯拔生死。故名。善知識當
親近。
1433c04
「**請問法要。必聞如*是斯經。甚深要句**」「**甚深要句**」已具前
文。學不師授。不可教人。請問威儀。事開三業。第一先明身業。「**請法**」者。莫問
形之貴賤。有道則尊禮拜。卑身如死求勉。善友以空慧。照之必教。淨於身
業。令知身爲幻聚。究竟必空。雖復還照法身。而常普敬。一切覺悟。身空爲
身。業淨爲神*通輪因也。次明口業求法。由如病苦求醫。身纓苦急。口求百
方知識。必以空慧。照之應教。口業清淨。知口七緣和會。語性虛無。雖虛無空。無
妨口利。一切是爲口業清淨。爲正*教輪因。次明心業求法。一向心專。由如久餓
求食。飢苦想食。求無聞思。善知識。以空慧照之。必教心業清淨。明知心體
無碍。性自虛通。不滯有無。而常利益。一切用而無盡。是爲心業清淨。是記心
輪因也。三業必然。是名求法。亦知洪鍾未響。待打而聲。故得必聞。如斯甚深

要句也。

1433c05
「爾時寶明菩薩。白佛言。世尊。云何是善知識」

此四句。寶明再白世尊。請決善知識之何。唯是身及衆。悉願同知。

1433c06
「佛言。善知識者。善解深法」　此三句。示善知識之所解也。「深法」者。非二乘觀智所知。非四句言議所測。言玄理妙。不在有無。越詮釋之表。出心行之處。言深法矣。

1433c06
「空無相無作*。無生無滅」　此四句。示善知識。所明之法體也。洞了眞如。實無生滅。但爲夢塵。燻於藏識。夢有種種身形。覺竟都無。本來無動。蔭蔭元幻。何變何遷。反照心源。一無形相。無起無作。無滅無生。無相無爲。越於詮說。故如佛言。無生無滅。

1433c07
「了達諸法。從本已來。究竟平等。無業無報。無因無果。性相如如。住於實際」

「從本」者。明眞如之性海。由如大海。本性清淨。風擊波生。相貌多種。因緣淨。淨故無爲。無爲故無業業報。業報但斷。平復法身。法身無間。窅然平等。止爲體寂。性自如如。妄識幻生。燻成衆業。冥眞內照。心浪不生。無生寂然。故當清心本不生。因亡果喪。心本不滅。業報雙亡。境如於智。智如於境。境智俱寂。號曰如如。知如復空。故言實際。

1433c09
「於畢竟空中。熾然建立。是名善知識」

佛欲顯善知識功能。故讚美空義。於十八空中。有爲空。無爲空。究竟空。等空。當於何求止。於此一切衆生。現在身上。於根塵十八。六十二見。五蓋五欲。貪嗔煩惱。衆塵牢中。動用擧止。熾然建立空義。不壞假名。而證諸法實性。得爲而不爲。是名善知識。

1433c10
「二十一種譬喩善知識品第八」

何爲勸親近善知識品後。有此品來者。爲前品雖教親近。未委親近功能。今顯二十一種。功能譬喩。決知深重。以是義故。有此品來。就此品中。爲二十一喩者。

爲對三心生滅。十八界成。十八三心。數爲二十一喩也。案『佛性』*云「善知識者。須具二
德。一者聰慧。二者慈愍。直有慈無慧。愛子病死。不能療治。直有慧無慈。
不療怨家之病。二德俱備。是名善知識」。1433c11「善男子。善知識者。是汝父母。
養育汝等。菩提身故」。經*云「智度菩薩母。方便已爲父」。又*云「寂照以爲父。
照寂以爲母」。如世間父母。止能生於宍身。宍身生滅。非爲究竟。故七代親絶。善
知識力。能生人之法身。用方便爲父。用智度爲母。觀行爲乳哺。万法爲資粮
生人。菩提之法身。爲究竟涅槃。涅槃無滅。猶行同故。生生同處。出沒相隨。故師徒
累劫。父母七代。故善知識。親無近日。是故我廣。爲汝等引父母。譬喩之始
也。1433c12「善知識者。是汝眼目*。示導汝等。菩提路故」
人之形骸。視聽之要。無過眼目。言衆生内。無心智之眼。謂之内盲。故論*云「非唯形
骸。有聾盲之哉」。夫智亦有之。今善知識。能開心智之眼。因生五眼。目視万法。境
智恒清淨。清淨無爲。動寂俱妙。虚通不滯。智益古今。趣於正道。故云。菩提
路故。1433c13「善知識者。是汝脚足。荷負汝等。離生死故」
七尺之軀。往來之要。無過脚足。善知識能生。人四如意足。如意足者。惣以定爲其
體也。一者欲如意足。欲是願樂義也。謂於定法。願樂師求。專釋一心。決然脩學
也。二者念如意足。謂專心處定。四威儀中。境智無遷。常無散亂。三者精進如
意足。謂於定境。及能定之心。内外推求。皆不可得。故無去無來之相。四者慧如
意足。謂以定心。涉境方便。沈浮能所常清。動寂俱妙。此四惣。以定爲其體矣。運
智行者。身心至涅槃崖。故言。是汝脚足。1433c14「善知識者。是汝梯橙。扶侍
汝等。至彼岸故」。彼岸涅槃之崖。言登高逈望者。非梯橙之扶。遊涅

槃十地者。非善知識不進。使人昇高去下。超預涅槃。故言。至彼岸也。

1433c15 **「善知識者。是汝飲食。能使汝等。增長法身故」**　食涅槃之香飯。飲解脫之禪漿。塵無依鏡。法身清淨矣。

1433c16 **「善知識者。是汝寶衣。覆蓋汝等。功德*身故」**　以*深心爲花鬘。以慚愧爲上服。以大悲心爲衣。被莊嚴應報等身。普覆一切學者。令登常樂。功德無邊。故言。覆汝功德身故。

1433c16 **「善知識者。是汝橋梁。運載汝等。渡*有海故」**　有海深闊。一法爲橋。無明路長。三車起駕。渡有生於有海。沈常樂於常津。自非善友。依憑無由。得呈茲路。昇沈動寂。因進一如。

1433c17 **「善知識者。是汝財寶。救攝汝等。離貧苦故」**

**「財」**謂七聖財。**「寶」**謂三寶也。其七財者。卽無漏智。爲其體也。一信。二戒。三聞。四捨。五慧。六慙。七愧。此之七種。是入聖道之資財。故言財寶。凡夫無七財三寶。癡窮火宅之中。既有三寶。七財資身。以登常樂之安無極。無生之受不窮。由善知識之功能。故言。是汝財寶。

1433c18 **「善知識者。是汝日月。照曜汝等。離黑闇故」**　此爲以外明。破內闇也。善友以鏡智圓明。無幽不燭。心無妨閡。而衆闇自除。破汝長夜之昏迷。成汝內外之明智。法身顯現。忽爾無生。

1433c19 **「善知識者。是汝身命。護惜汝等。無有時故」**　**「身」**者汝身。**「命」**者慧命。善友以法身壯大。證同體大悲。不見生滅去來。不見自他差別。但救惜汝等。法身沈沒。救護汝等。無間無時。必令同已。故言。無有時故。

1433c20 **「善知識者。是汝鎧仗。降伏諸魔。得無畏故」**　以大慈三忍爲鎧。以大悲三明爲仗。用四無量心。得四無畏力。降伏四魔。超諸煩惱。滌除邪見。清淨顯陽。一切伏從。故云。得無畏力故。

1433c21 **「善知識者。是汝絚繩。挽*拔汝等。離地獄故」**

0368 以照心爲絚。以無相慧爲繩。以大悲十力爲挽拔。以方便善巧爲出離。一切有爲。
0369 滅於諸行。不涉地獄餓鬼畜生之趣。出生死之塵牢。故云。挽拔汝等。離地獄故。
0370 1433c22「**善知識者。是汝妙藥。療治汝等。煩惱病故**」　「**妙藥**」者。寂滅無生之
0371 大觀藥也。煩惱病纏。必待眞如之藥。死生難出。還資本淨之心。心淨淨已。卽六識
0372 不生。卽六根清淨。六根清淨。卽六塵不染。六塵不染。卽一切法淨。一切法淨。卽
0373 煩惱不生。煩惱不生。卽一切病盡。是名解脱。故云。療治汝等。煩惱病故
0374 1433c23「**善知識者。是汝利刀。割斷汝等。諸愛網故**」　夫「**利刀**」者。無相眞淨之
0375 心也。但一法閑心。卽癡愛之羅。籠結一微妄動。三界之網。染纏當須。反照心源。能
0376 照亦遣。能所俱淨。處寂滅心行。卽貪愛之網。無生無相之刀亦滅。
0377 1433c24「**善知識者。是汝時雨。潤漬*汝等。菩提牙*故**」　「**時雨**」者。言善友。以布大法
0378 雲。蔭映平等。雨於要法利潤。合時自利利他。故言時雨也。明定心如水之德。在
0379 天爲雨露。下潤蒿蘭。在地爲泉源。上飲飛走。成於八功德雨。漬潤身田。沾濡
0380 乾慧。牙生十地。　1433c25「**善知識者。是汝明燈。能破汝等。五蓋闇故**」
0381 此言破外闇也。善友以眞如惠燭。燃此般若心燈。令汝能反照。五蓋之昏。俄成五
0382 明之惠。睡疑除滅。覺悟横生。不顧三塗。超昇彼岸。其果卽燃燈佛是也。
0383 故言。能破汝等。五蓋闇故。　1433c26「**善知識者。是汝善標。教示汝等。趣正道**
0384 **故**」　言凡識愚迷。愛因增果。愛爲三惡。增受三塗。故須標示三車。使知三
0385 脱。途遊八正。沐浴八池。不沒四流。超昇正道。故言趣正道。　1433c27「**善知識者。是汝薪**
0386 **火。成熟汝等。涅槃食故**」　善知識使汝。以六塵爲薪。六識爲火。六度爲燃。
0387 却照舌了味時。和合四緣。緣緣之中。無能了味。和合之内。亦無能食。因處既空。

果中非有。味塵虛幻。自體不眞。一一推之。食無生滅。是以終日食。不乖於無食。亦
未曾食。未曾不食。性此生滅。體自涅槃。故言。成熟涅槃食故。 1433c28 **「善知識者。是汝弓箭。射殺汝等。煩惱賊故」** 以禪定爲弓。以智慧爲箭。以照心爲射。觀
於境智。射殺根塵。顚倒之昏。有爲煩惱之賊。無爲無事安寂。太平二處。於常
樂矣。 1433c29 **「善知識者。是汝勇將。能爲汝等。破生死軍故」** 以無碍淨心
爲猛將。以智慧爲刀劒。以万法爲兵。以精進心爲馬。禪定爲鞍。以等觀普心爲陣。
菱夷六賊。摧滅四魔。滅除生死之軍。恒然空寂。泯然涅槃。斯現之矣。
1434a01 **「善知識者。是汝如來。能破汝等煩惱。至涅槃故」「如來」**者。乘眞如實
道。來成正覺。而眞如寂滅。而影現去來。故曰如來也。以大悲覺力。抜除汝等。
生死之苦也。故駕三車於戸外。引衆子於清涼。汎六度之虛舟。運四生於彼岸。
煩惱化爲常樂。生死翻爲涅槃。意廣八万四千。要妙卽一心。寂寂不住。寂而與
同體大悲。大悲無盡。常際抜於古今。故言。能破汝等煩惱。至涅槃故。
1434a02 **「善男子。善知識者。有如是無量功德。是故我今。教汝親近」**
所言**「善知識」**者。是通達菩提行中人也。其眞乎汎若虛舟。動寂俱妙矣。無凝
滯於万物。而能與代推移。心細相龕。或俗卽行脩佛行。心師佛心。耳學佛聞。眼
依佛見。意學佛意。身脩佛身。鼻習佛香。舌嘗佛味。遂得法身壯大。證同
體大悲。然後着如來衣。入如來室。遂能如來滅後。法欲滅時。人天路空。三惡
道溢。顯如來教。說如來心。示三乘之可乘。顯六趣之難趣。抜苦出於苦海。得
常樂於常津。遂得免於六道。長悲出三途之永苦。善知識之恩重。功德無
1434a04 量無邊。故言。教汝親近。聊爲二十一喩。 **「寶明聽衆等悲不自勝品第七」**

何爲譬喩品後。有此品來者。但爲心不孤起。逐境推移。聽苦則悲。聞歡則樂。
況寶明時衆。親聞聖尊説。善知識之恩厚。累劫常慈悲。深巨海之深恩。重
須彌之重敷。楊二十一喩。擧衆莫不悲號。故此品文。名悲不自勝品矣。就此品中。
文含四意。第一顯寶明衆情悲泣。第二擧衆慚無報恩。第三語已再悲。第
四世尊垂愍。經*云「菩薩病有何因起。曰以大悲起」寶明卽法身。明大證
同體大悲。不見彼我性殊。不隔自他差別。痛衆生漂淪永劫。沈塵法身。
迷善知識之恩。深悲其不能親近。寶明摧爲哀痛。恃心咸切群機。令未
學之徒。必令親近已。内曰。寶明内無自性。外絶依因。内外希夷。無他無自。不自而
自。故悲不自勝。「於是寶明菩薩*大衆。聞佛説此妙法。及善知識。
甚深要法」1434a05「妙法」者。卽此經之法也。「及善知識」者。卽此經所要。明
善知識。二十一喩者也。聖尊慮此法句之深玄旨。脩求之所趣。
復「擧聲號哭。淚下如雨。悲啼懊惱。不能自裁*」1434a06衆等蒙佛。注大法雨。漑
灌身田。悟法於心。哀悲外發。懊惱積劫。知眞晩遲交流。「淚下如雨」内曰寶
明。既照法身平等。冥於自他。自他俱空。故言。不能自裁也。
「自念我身。從曠劫以*來。爲善知識之所守護。是故今日。値於如來。得聞深法。
如是遇者。善知識力。非我力能」1434a07「善知識」者。善於如來佛法也。卽慈如
佛慈矣。生之守護有緣。由如暴鷄之伺卵矣。張二乘之翅翼。垂覆三機。顯
法身之志眞。温濡上智。指眞如於心本。内就法身。明究竟於眞空。外除堅殼。
是宿殖德本。今日得値如來。由如火處木中。非鑽不能自出。故言。善知識力。
非我力能。「自念我等。從本已來。未曾報恩。無心方便。親近供養」1434a09

本來者。從眞如之本也。衆等自責。背眞如之淨本。流生死於大千永劫。沈淪
不能自出。蒙善知識之恩力。今日得値如來。未曾以四事。報於生身。未曾以
七財。資於法躰。唯知妄想。阻背法身。故言。不能親近也。其「**方便**」者。是無爲
之用行。無不妨於有。有乃非常處。有不廢於無。無非斷滅。故得斷常雙離。
體相俱融無心。無心無融。而能動寂。動寂俱妙。妙進法身。法身出纏。故言。方便親
近也。此名自內。眞善知識。供養之眞者矣。
1434a10
「**說是語已。重復舉聲。悲號懊惱。槌胸大哭*。譬如有人。新喪父母。號跳*啼泣。死而復蘇***」** 前哀纔息痛。
知識之恩深。後語再悲。表內心之大愧。由如新喪父母。顯其悲極唯深。哀其
觸事昏迷。雖處生之如死。內曰忽明然智度。而爲父母之養。悟法身之可生。
卽雖在死之如生。了去來之虛假。卽無無常淨。故曰。死而復蘇也。
1434a12
「**爾時世尊。見是事已。生憐愍心。卽噓長歎。以歎息故。振動三千。大千世界。一切佛
刹。亦皆大動***」** 外典。有一婦人傷悲。尚感長城之毀。況乎大聖興歎。動
物寧不影。從是以威振大千。昭彰異土。推爲振動。擊發有緣。
1434a15
「**普光莊嚴菩薩等證信品第八」** 何爲悲不自勝品後。有此品來。前章爲寶
明時衆。悟善知識之恩深。擧衆悲號。世尊以之興歎。故現地動之相。振遠威
於大千。寶明如來刹中菩薩。有緣興問。彼佛爲說。此佛彼衆。因而信成證成。相而不
疑。故言。證信品矣。此品之中。文含六意。第一彼佛號。第二彼菩薩問字瑞相之由。第三
寶明如來決疑。爲此方佛事。第四普光之衆請如來。第五文殊速令請法。第六
佛爲略說。有此六意。此品玄成。又他方聖衆來祥。此衆陪加殷信。復名。證信
品矣。
1434a16
「**於是東方。百千万億。阿僧祇土。有國名寶主*。佛名寶相」**

第一。顯彼土。如來名號者。「**万億阿僧祇**」者。以明極遠之數也。「佛」者三身之惣名。「**寶相**」者。功德之嘉號也。明此如來身中。法寶功德之相。悠萇舟航大千。俱超惡趣。應身於寶主之國。鏡心恒照十方。釋迦佛歎息。摧時光相。彼方先見也。

1434a17
「**有菩薩。名普光莊嚴。見此地動。白寶相佛言。世尊。如此地動。是何瑞相***」

第二。彼菩薩問於瑞相。夫地動之祥者。多是十方諸佛。欲説正法。摧爲地動。召集有緣也。二爲劫對年飢。慈尊愍物。現地動相。令興福田。三眞脩之輩。行力道成。地神歡喜。而爲振動。普光不知所已。請問寶相如來。

1434a18
「**彼佛答言。西方***

**百千万億。阿僧祇土。有國名娑婆。佛號釋迦牟尼。爲諸衆生。説於佛法。決定大乘。善*知識恩。故現斯瑞**」

第三。彼土如來。説此方佛土。都不思議之相力。故顯釋迦之名。歎其法力深玄。而彰大乘之號義。稱決定金剛之譬。不摧預此法期。善知識之恩力。

1434a21
「**普光莊嚴菩薩。白寶相佛言。世尊。我欲與此大*衆俱。至於彼娑婆世界。至*釋迦牟尼佛所。請問彼事善知識。并問深法。寶相佛言。善男子。令正是時。宜速疾往***」

第四。普光之衆請如來。聞善若驚不異。顯然之急。希沾聖會。速往之命無差。

1434a25
「**於是普光莊嚴菩薩。與無量大*菩薩。各*現身。坐寶蓮華。師子之座。放大*光明。如大*力士。屈申臂頃*。來至娑婆世界。在虛空中。湛然而住**」

世尊歎音發。而十方響。會聖道彰。而大千俱應。況普光菩薩之衆。超生淨土。咸證法身。身標六通。通神自在相。卽光明普照。彰其利及闇暝。痤卽師子。蓮華表華。結心成果實。自他俱利。時趣法場。迅疾無方。方之屈申臂頃。人逾限量語稱。無量衆來。内曰菩薩。久證空心。窅冥無所。故曰。在虛空中。湛然而住。

1434a29
「**爾時寶明菩薩。見此光明*。卽白佛言。世尊。**

**此何光明。初未曾見」**　觀光明之異常。問損益之由致。菩薩情殷愍物。

1434b01
所以摧生問端。**「佛告大衆。及寶明菩薩言。此是寶相如來所。諸大***

**菩薩。聞我爲。汝説大乘經。及善知識。現地動相。是以來耳*」**　大衆既聞。他方

菩薩。欲來復覩。現前光相。卽誰不渴仰。一想無餘。樂大乘之可聞。佇決定之知定。

1434b03
翹心剋念。盡力無疲。**「寶明菩薩。及諸大衆。聞是語已。皆大歡喜。整理**

**衣服。侍佛左右」**　他方聖衆。來祥必説。難聞之法。聞勝必益。誰不情

摧。菩薩情超。彼我美惡。不在威儀。無違俗諦之心。假爲賓主之敬。

1434b05
**「於是普光莊嚴菩薩。於虛空中。雨衆寶華」**　聖衆既在虛空。明其心

無所着。雨華顯其因相。表己來求實果。

1434b06
**「雨華已訖。尋至釋迦牟**

**尼佛所。遶無數匝。合掌作禮。於一面立」**　此莊嚴菩薩。申三業之敬。第一先標心

業。爲合掌之敬。明兩手各一心合者。願兩心相向也。標我心至佛心。佛心至我心。兩心相至。師

資道成。是明心業之敬也。第二表於身業。陳作禮之敬也。言禮者體也。明二手一頭。及

於兩膝。名爲五體。五體殷勤。俱至於地。如死求免。願聞方便之道。徑路法身。故明

身業之敬也。第三陳於口業之敬。却住一面。明無二心。不言而立。標求聖説。由如久餓求

食。資粮法身。趣涅槃城。故專口業之敬。

1434b07
**「佛告普光莊嚴菩薩言。善男子。汝發**

**來時。汝之世尊。氣力安不*。汝涉遠來。得無勞也」**　言寶相如來。眞冥極道。

亦無安而不安。釋迦佛。混氣眞如。亦無問而不問。量爲俯眞同俗。故不同。同而問

之。眞不乖應故不矜。矜而慰愈。豈直卑並照。柳亦桓俱恩。故曰。汝之世尊。氣力

安不。汝涉遠來得無勞也。

1434b09
**「普光莊嚴菩薩。前禮佛足答言。時我世尊。常**

**命色力。更無他也」**　法身澄湛。廓爾常存。故云常命。爲眞如應化。而影現去

0488 來。假似色聲。故云色力。實無生滅。一切體同。故曰。更無他也。
0489 1434b11
0490 「慇懃囑者。致問無量」　如經不釋。　1434b11「於是衆中。文殊師利菩薩。謂普光莊嚴
0491 菩薩言。諸善男子。汝等遠來。何所諮請」　彼衆既華光而來。來必有意。文殊
0492 遂爲擊發佇想。希於異義。　1434b13「普光莊嚴菩薩白。文殊師利言。大德。我承
0493 世尊。說甚深法。及善知識。所有功德。是故我來。欲有所*諮事。善知識。所有
0494 功德」　此普光菩薩。具宣來意以益。文殊假爲賓主之談。通利古今之
0495 弊。　1434b16「文殊師利言。若有諮者。宜速發問。此諸大衆。願樂欲聞」
0496 第五文殊。速令請法。如經不釋　1434b17「於是普光莊嚴菩薩。知大衆意。前禮
0497 佛足。白佛言。世尊。我等昔來。慧力微弱。不能善解。決定大乘。深妙之義。及善知
0498 識。所有*恩德。如佛前說。恩重難議。唯願世尊。爲諸大衆。說於親近。善知識
0499 法」　「禮佛足」者。再申請法之敬也。言昔古也。智爲内心。慧爲外照。普光自云。
0500 我内心愚劣。外慧纖微。於其決了大乘。闇於深妙。不悟善知識之恩厚。功德之力
0501 難思。寶明蒙説。於前威振大千之土。願令一一示我。我等彼土脩行。
0502 1434b22「佛言善哉善哉。善男子。乃能爲諸衆生。問如斯法。諦聽諦聽。善思念之。當
0503 爲汝説」　第六佛爲略説。世尊重其所請之益。故歎云。善哉善哉。如其
0504 爲説之利。故勅云。諦聽諦聽。再令專心在志。故云。善思念之。使清其内外中
0505 間。卽菩提可顯。故得師資道。暢授大故云。云善思念之。當爲汝説。
0506 1434b24「煩惱卽菩提品第九」　「煩惱」者卽品中。貪慾瞋恚。愚癡邪見。五蓋五慾等是
0507 也。能燒溺衆生。入六道苦故云。煩惱也。「菩提」者梵言。此地翻名道也。謂心得虛通
無碍。卽證万境空無。境空不碍於心。心空不碍於境。内外虛通無碍。故云道也。明

善知識。能令學者。於貪慾嗔恚。愚癡邪見。蓋慾之上。皆以定慧之力照之。
所爲所起。中間内外。三處皆空。無絲豪可顯。卽有無雙寂。能所俱亡。境智常
通。觸事皆道。故云。煩惱卽菩提品矣。經*云「煩惱是道場。知如實故」也。又淨*名
云「若無增上慢。佛説婬怒癡。性卽解脱」矣。是故滅無明於大夜。非日月不無
變。煩惱爲菩提。非善知識不拔。故此品。文開六喩。還顯六依。身心六憑。超然六
度。惣明善知識之功德。使師學者。剋證菩提。是以起喩。慇懃盡命。必令親近。
1434b26
「**善男子。善知識者。有大功德**」　「**大功德**」者。有法身之大功德也。言法身無極。
量越虚空。超於有無。苞含一切。具大有六。該通用也。一者體大。二者相大。三者用
大。四者理大。五者行大。六者果大。有此六大。還與六喩。故言。有大功德也。言「**善知識**」
能於死生之大海。構無相之法橋。關防六關。津梁六道。超然六度。歸於法身。常
處涅槃。故言。有大功德。
1434b25
「**能令汝等於貪欲**」　夫「**貪欲**」者。無明爲因。着
心爲本也。皆從五藏識之中。納於種子。種子牙發。充穢心田。心田内昏。空中妄見。針
花有實。有實生故。愛取貪求。名之爲欲。卽眼欲於色。耳欲於聲。鼻欲於香。舌欲
於味。身貪於觸。意貪於法也。於卽輪廻六道。苦受不窮。生死恒沙。匪獨貪於男
女之欲也。若入巧度門中。非但貪惡是殃。貪善亦病。乃至貪佛。貪菩提。貪涅槃。
貪經。貪論。貪有爲無爲。皆悉病也。故經*云「不着佛求。不着法求。不着僧求」
苦是有求。卽爲非法。但起毛髮。有求之心。卽輪廻三界。故論*云「有求皆苦。無求乃
樂」　不是妨碍。經論看訖。必須身心。實行貪解。不行理乖筏喩。況於八字之功。
永絶心乎。
1434b26
「**瞋恚**」　由前貪慾之上。貪得則喜。失則生嗔。嗔心内憤。未
發於口。名恚也。嗔恚之毒。愈於猛火。焚燒一切。慈善根本。令其不生。由若火焚峴

0528 崗。玉石俱碎矣。故經云「一念嗔心。能除八百功德」論*云「有仙人。仙道既成。其妻由樂
0529 供養。妻後被國王所獲。仙人嗔恚。召諸鬼神。風吹沙土。埋於三國。人皆死盡」至
0530 今曠野毒氣。由盛無人敢居。一切行者。宜先戒瞋恚心。貪能親附含識。嗔能
0531 永捨。衆生一代。怨憎累劫。不相慈善。斷佛種矣。 1434b26「愚癡」
0532 「愚癡」者。無智之惣名。不解之通用也。以麁細言之。略標其二矣。所言麁者。謂於前
0533 瞋恚之上。猛熾如火。不擇親疎。上下尊卑。觸惱陵燒。滅於慈善根本。怨憎累
0534 劫。共入三塗。故名麁也。又云「癡」者。執愛也。不解之通用也。不解之通目也。躭貪
0535 五慾。染着無厭。漂淪愛河。入諸胎獄。生死永劫。常背法身。故名麁也。言其細者。
0536 不解眞實。名細癡也。内曰不解万法。自心所作。將心必求。別覓菩提。如犬逐塊。
0537 不知心滅境滅。騎驢覓驢。遠念西方。近迷淨土。違背自佛。着論貪經。駛説不
0538 行。與癡無別。此則名爲癡也。故『楞*伽經』云「外性非性」性之言解也。言外解非解
0539 矣。由如捨棄己田。外鋤他穀。無自得於濟用矣。故名爲細癡。 1434b26「邪見」
0540 「邪見」者。不解之名。僻行之因也。亦可。無而執(カ)有。謂之爲邪。眼色是非。謂之爲見。達
0541 解故一切法正。不悟故一切法邪。邪見兩眞。後文自顯(カ)矣。 1434b26「五蓋五慾」「五蓋」者
0542 止。是瞋恚。貪慾。睡眠。疑惑。悔調等也。「五欲」者。復是前文。眼耳鼻舌身等五
0543 根。欲於色聲香味觸五塵。 1434b26「衆塵勞中。建立佛事*。不起一心。得大功德」「塵」
0544 者。言能汚坌淨物也。「勞」者。又言執心勞苦也。言凡夫沒。恒沙煩惱之闇。塵纏
0545 五蓋五慾之勞苦。汚坌淨心。溺於生死之海。言善知識。能以大悲覺力。能令汝
0546 等。止於此煩惱。塵勞之上。觀照根源。内外中間。無絲豪可得。無生無滅。清淨涅
0547 槃。能照亦虚。無觀無覺。無覺之覺。覺無一心。故轉塵勞之苦。得涅槃之大樂。故言。不

起一心。得大功德。

1434b27
「譬如有人。持堅牢*船。渡*於大海。不動身心。如到彼岸」者。方於善知識。「持堅牢船」者。喩無生之大觀也。明善知識能。以無相無爲之大法。大覺大悲之願力。曉示汝等。達悟無生。内曰知身假聚。身無所動。觀心如幻。心無所動。無起無動。體自眞如。眞如亦無。知心又寂。不證空寂。其道堅固。乘此堅牢之法船。躑渡死生之大海。故云。不動身心。如到彼岸。

1434b27
「善知識者。亦復如是。以大願船。處生死海。運載汝等。不動身心。到涅槃岸」善知識既悲。於生死海闊。以大願爲船。無明界長。以淨心爲度。知淨亦泯。寂滅無爲。使汝等身心。太空窅冥無動。迥陵三界。常處涅槃。故云。不動身心。到涅槃岸。

1434c01
「善男子。譬如有人。欲行嶮路。恃託一人。善於伎藝。鎧仗備*有。并好寶車。駕以五馬。身心無畏。得達無難」「譬如有人」者。謂初心菩薩行人也。「欲行嶮路」者。是愚癡邪見。五欲五蓋。十惡之境也。動即三塗。故言。嶮路也。但初學之徒。觀心微弱。或恐爲煩惱之所逼迫。敗壞善根。故言嶮也。「恃託一人」者。謂善知識也。言善知識。嚴六度之伎藝。整慈悲之鎧仗。洞万法於心淨。駕大乘之寶車。策以五通之駿馳。拔漂沈於五道。能令汝等。不離於心。達悟無生。窅然無相。獲無畏力。預於常樂之津。達於無難之矣。

1434c03
「善知識者。亦復如是。法身壯大」法身虚廓。寂冥無形。超於色聲。不可阻壞。包容不動。故言壯大。

1434c04
「善於方便」言*夫心浮於外。着於生死。二乘心沈於内。闇於悲智。俱爲斷常所縛。皆非方便也。言菩薩。逈出沈浮。二俱不着。卽以大悲起智。智無不通。以智遵悲。悲無不救。雖常淨於能所。濟拔無窮。故云。善於方便。

1434c04
「六度伎藝」俗塵以禮樂射御書數。爲伎藝。善知識大人。以布施持戒。

忍辱精進。禪定智恵。爲伎藝。乘此六種。伎藝之能。度六道苦。故言六度。

1434c05
「慈悲鎧仗」　「鎧仗」者。可以拒敵。可以防身。鎧仗既備。超悲毀害明矣。善知識。布慈悲於万物。亦感万物慈於己身。感得一切相。慈卽怨情大泯。卽法身無碍。卽用慈悲。足爲鎧仗。

1434c05*
「皆悉備有」　言「有」者。八万四千波羅蜜門。門門合道。合卽一心空寂。散卽義演無窮。理無不該。故言備有。

1434c05
「乘於大乘」*　大乘之義。釋前文了。

1434c05
「駕五神通」　五通者。論云*「神者用也。通者不碍也」「陰陽不測。謂之爲神」利用無碍。謂之通矣。通利神用。濟抜古今。經云*「菩薩以具五通。或云六通。或言一通」者。言菩薩久證。無生智用。一切功用不測量。越二乘故。言六通也。復爲未證妙覺。習氣未盡。劣於諸佛。故言通矣。復此五六俱是。法身之用。故言一通矣。其輪六通。開合爲義者。直顯聖人。身心口業。神用謂之三輪。明於無心。眼耳鼻通等六根。根悉能通。故云六通。其中因果之義。故煩而不引。

1434c06
「運載汝等。得無所畏。離於三塗。生死諸難」　「運」者。上六度之智舟也。「載」者乘大乘之法車也。善知識。暢法身之壯力。嚴鎧仗於慈悲。融方便於一如。駕五通爲五馬。能使汝等。出六道越三塗。證如生之不生。照如滅之不滅。永離三界。來往逾於七種生死。故曰。離於三塗。生死諸難。

1434c07
「善男子。譬如有人。衣*楞伽寶服。甘露法*藥。消除諸病。命不中夭」　「楞伽」者。西國山名。此地翻名難往也。佛於此山。説内心眞實佛寶。故託此山。喩以作經名。故言。楞伽寶也。言此山在南海之内。高五百由旬。下尖上闊。四面俱海。傍無門戸。自非力證神通。不可得入。故云難入難往也。將明此法句經之義理。是内心。眞實佛寶。無相無形。不是不非。非無非有。出言像言詮之表。越門戸之頻煩。自非善知識之明心。授以無生之觀。而於

此經。亦難入難往也。故卽譬楞伽。爲衣服寶矣。「甘露」者。天中上味之藥。人得服之。疾病莫不除愈。亦無飢渴之患矣。善知識功能。亦若此矣。能令汝等。於難入難往之法中。悟得往入之方便。飡甘露之法藥。衣楞伽之寶衣。超妄執之燻山。覺觀所覺。遂得無明種斷。煩惱永除。冥慧命之不窮。混法身之壯大。故曰。消除諸病。命不中夭。

1434c08
「善知識者。亦復如是。衣*智慧寶服。於法藥消除*煩惱病。慧命無窮」

其「智慧」者。出愚癡之惣目。寔悟道之通名也。既慧了万法虛無。空緣幻聚。假爲名字。卽體皆空。本無動無作。何滅何生。境既不滅不生。智卽虛通無碍。無碍不滯。方之寶衣。故言。智慧寶也。其「法藥」者。爲智證無碍虛通。卽一切皆通於善惡之法。乃至殺盜婬怒。貪欲恚癡。種種煩惱。并餘結使等。小一念關心。卽却照根本。於其生住異滅。不見絲毫可眞。能照亦虛。境智俱寂。寂滅無相。顯現法身。卽命無窮。由飡法藥。故得煩惱病滅。力至無生。

1434c09
「善男子。譬如有人。依師子王。行諸獸中。無所*怖畏」

至如狐假虎威。毛群尚無當。擬況隨師子遊步。狡獸不能影潛。亦如依善知識之良師。衆相自然。證泯親近。不捨万境。悉證空無。超諸怖畏。心安大寂矣。

1434c11
「善知識者。亦復如是。若有依者。遊塵窣*中。亦無所畏」

「塵」者。六塵。言能汚染淨心。「勞*」者。明執心勞苦也。塵汚執勞。沒於生死。故言怖畏也。言知識越彼煩華。明茲巧度。直令汝等。入無生之大觀。觀於四大虛假。照五蔭皆空。卽六根從滅。六根滅已。卽六識不生。六識不生。則六塵虛淨。六塵淨已。能所俱空。知空亦空。言語道斷。心行處滅。卽万法一如。越於怖畏。故曰。遊塵勞中。亦無所畏。

1434c12
「善男子。譬如有人。依須彌山。假使八風。不能吹

動。善*知識者。亦復如是。八難之風。不能吹動」　「須彌山」天帝之所居也。崇高水上三百三十六万里也。衆寶以成之。假使八風奇振。不能傾動。其山安固也。將喩學者。遇善知識。心證眞如。假使稱機。苦樂衰利毀譽等。八法之風。逼惱身心。無爲不動。又内曰。八識飄動。名爲八風也。故經*云「觀識風」矣。今則凝昭八空。卽無風動。常超八難。高出十纏。卽八識之風。難消須彌之山安固。

1434c14
「善男子。譬如有人。依金翅鳥。遊*於大海。不畏諸災。摩竭魚難。善*知識者*。亦復如是。逕於*生死海。不畏諸魔。外道之難」　「金翅」者。大鳥之標稱也。搏空海上。以翅辟水。捕龍魚而食之。以譬善知識之功能矣。「摩竭」者。大魚之別名。沈生海内。滯溺幽深。以譬衆魔外道矣。魔以障善爲業。滯於死生之流。外道者樂諸見。沈於欲見之海也。明善知識功能。由如金翅之鳥。而食龍魚矣。能令汝等。直自觀達無生。諸見寂滅。寂滅不滅。知空不空。非寂非空。冥超四説。卽泯四魔。於死生之海。移外道於我見之流。故如今(金)翅之食龍魚也。既心無間念。卽身無擇於緣對。縱屬安危苦樂。所生親愛。眷屬妻兒。左右僮僕等悉身。是魔人之見。皆以眞如空慧照之。寂莫不寂寞。不無爲涅槃非別。故經*云「諸魔外道皆吾侍者」卽高出於煩惱之碍。是降煩惱魔也。煩惱既盡。相分終無。熏習之垢。垢盡蔭絶。不受五蔭之身。是降蔭魔矣。蔭魔既無。超於七種死生之難。是降死魔矣。既超生死海中。其法身運運增長。心無倚着。眞如現前。寂寞無爲。宵冥空大。永離生死之界。是降天魔也。故曰。生死海中。不畏諸魔外道之難。

1434c16
「善男子。善知識者。有*如是無量功德。廣欲説者。窮劫不盡」

明善知識。往曾爲無明。風擊波生相動。自逢善知識。復返清澄。卽累劫脩

功。功不可窮。積劫脩德。德不窮盡。卽無功之功大功。就無德之德大德。成卽恒沙
不可以記其功。僧祇不足。以數其德。故云。廣欲說者。窮劫不盡。
1434c19
「求善知識不惜内外受命嫌疑品第十」　何爲此品次於前者。爲前品頭顯。煩惱
是菩提實性。故爲六譬。還顯六依。故此品顯。不惜受命嫌疑。明善知識。決須親
近。若不輕身。盡命透死。求眞動隔。恒沙死生難出。是以雪山眞子。爲八字以亡軀。薩
陀高士。重實言而刺四。是顯輕身重道。故列品名乎。内曰。何知何識。爲善知識
乎。答曰。唯心是也。若無明未覺。不惜身命。向外求師。覺已亡言。當宜自觀心本。
内外三處。能所皆空。知空亦空。空空亦淨。故經云「欲得淨土。當淨其心」「三界虛
妄。唯心所作」故智人求心。不求佛也。欲覓眞善知識。勤求其心。心自顯淨。自顯法
身眞佛。法身眞佛。可法可則。自當師之。是爲自眞善知識。嫌疑永絶矣。故不
惜促命。以登常命。不惜幻身。以得常身。故言。不惜内外受命嫌疑品。
1434c20
「若有智者。見善知識。應當供養。不惜身命」　命陳内外兩釋。隨其樂從悦。
自身心稱機飡藥。外曰。智者起細行人也。證知身命非久。生死苦長。六道去來。
身爲禍聚。已歷恒沙生死。不捨會必無常。善知識。既能生於法身供養。必
超生滅。所以不慳。頭目捨命。標其至心。實爲重法輕身。故言。不惜身命也。内
曰。「見善知識」者。見於自心本也。心則爲法身之體也。有一法開心。照令空滅。知滅
亦滅。能滅亦亡。亡之又亡。出於思測。不間無妄。眞如炅然。卽不知而知。不識而識。識知
明大。滋長法身。故言供養。自善知識也。又照宗身虛幻。五蔭假成。蔭蔭之中。
一無身實。和合之内。寂滅無身。幻業自虛。惜離分別。遂得泯於身見。知命實
1434c20
空。滅身命空。故言。不惜身命也。經云「法無受命離生死故」　「何況揣財。眷

0648 屬妻兒。及以國城。如得恪惜」　外曰。「揣財」者。沈淪質碍物也。七珍謂
0649 諸貴寶。粟帛資財之類。「眷屬妻兒」卽現存親愛也。今一一觀之。悉非長久。幻
0650 似片時恩愛。生死會當。別離捨之。供養知識。諸法以求常住。須*達拏太子之
0651 類。內曰。「揣財」卽四塵成之。塵塵自空。財何有實。其心惣幻。內外悉空。本空無受無
0652 財。誰悋誰惜。又假身爲万虫之國。半滅不異乾城。縱內證法*喜之妻。慈悲之
0653 女。法侶眷屬。誠實之男。卽照能證之心。亦皆空滅。知滅亦滅。運運虛通。是名
0654 內心淨捨。故曰。眷屬妻兒。不得悋惜。　1434c21「若善知識。諸有所作。種種境界。
0655 不應起*毛髮疑心」　夫「疑」者。無明之所生。不決之惣名。謂是謂非。猜忌於彼。
0656 障碍眞覺。無過此心。是以第一。先宜去於形障也。但以執形求道。不會聖心。有
0657 道卽尊。無論貴賤。外典屈師於屠釣。諸天敬法於野干。今若取相求眞。眞是昏
0658 迷失道。謹案經*云「我靈鷲在中。并餘住處。常以種種形容。方便教化。或作天
0659 魔外道。下劣凡夫。愚鈍貧窮。屠兒沽酒。寡婦婬女。無所不爲」皆與共之同事。隨
0660 情誘引。但未得他心慧眼之通。不可評人善惡。故於一切形相之中。不得輒生疑想。
0661 但以敬之如佛。卽是出於形障矣。第二去於事障者。觀於一切事法。皆是緣塵。
0662 幻合假有空名。緣塵悉空。事實無實。及於現前。善知識處。種種起事。必不得生
0663 疑心。何以故。是智者。摧實無恒。玄通不滯。莫不善惡俱履。染淨雙融。量前根
0664 性所宜。同事誘引。或使前人。厭捨諸欲。反向菩提。或練自力牢強。熟於塵境。
0665 自他俱利。方便觸塗。若起疑心。實乖正受。是以離於事障也。第二*去於心障
0666 者。體知心是大道之源。死生之本。若心塵以淨。終日動用。無爲寂然。則大道
0667 行之矣。若無明未除。一刹那中。四百生滅。卽死生常苦。但心不孤起。由境故生。心照

境空。則無生無起。心源不動。眞體寂然。無妄無動。眞常眞矣。眞名常道。眞
名法身。若起毛髮生心。卽名爲失道。故曰。不得起毛髮心也。三障必去。無生現前。
1434c23
「**所以者何。若有疑心。不得正受。甚深法句**」　「疑心」者。重顯去三障之疑也。前文已釋
矣。「**甚深**」者。出二乘之智。知越罪之識。識玄理妙息。想心行法。顯法身句。明句理邃
幽出微。故曰。甚深法句也。
1434c24
「**汝等大衆。於善知識。應斷疑心**」　此三句。再勅斷疑
之戒。無猜測之心。猜疑實除。方堪進道。
1434c25
「**普光問如來慈偈答品第十一**」
夫法體希夷。卒言難究。眞如寂寞。冥昧叵祥。故此經從第五品已來。必令學者。
棄捨身命。以求知識。今普光菩薩。必願親聞聖說。是以再白如來。世尊。後許
先挫。聲聞恐驚從下識。又復不忍違於物願。是以說偈興言。故因目之云。如來
偈答矣。又愍蒼生離眞失本。三界受身。生必五慾。漂馳動卽。貪瞋競起。故慈
父施。眞如之法藥。設方便之法船。轉三毒爲三明。變六塵爲六度。又捨船袪滯。六度
之用。還空鏡像非眞。三毒之爲常淨。故照十惡。爲如來之種。五欲爲至道之場。拔
生死於姪怒之中。指涅槃於死生之內。但爲惡言逆耳。惡事逆談。俗諦不善。其
惡言。使小智者。長時妨碍。今佛卽言。惡事惡言之上。一一直示眞如。使永超
生死之悲。是名眞實慈也。故曰。如來慈偈答品矣。次明普光菩薩。重請深義。
1434c26
「**爾時普光莊嚴菩薩。白佛言。世尊。云何正受。甚深法句。何爲*甚深**」
不測問希求。聖說甚深之義。必願親聞也。
1434c27
「**佛言勿作是問。若今說者。聲聞緣覺。及新發意菩薩。聞說斯法。心所迫迮。斷壞善根**」
聲聞緣覺必沈。沈於寂滅。直解捨穢取淨。未能善惡雙融。是以不利人間。惡心
使軫懼。凡夫卽心。浮於外常苦。六塵性識無明。聞善不悟。又新發意菩薩。復

0688 惣離沈浮。由自善根微弱。聞惡心尚不安。又聞實道。不捨貪婬。通遊十惡。則力
0689 有罣碍。退失本心。故言。心所迫迮。斷壞善根。
1434c29 「**普光莊嚴菩薩言。世尊。**
0690 **爲我等輩。方便演説**[*]**。與諸衆生。作將來業**」　『大[*]悲經』云「大乘之法。由如鬱
0691 金山頂。有栴檀之樹。忽風吹動。逆風四十里香。何況順風」其香無量。設使聞大乘而
0692 生謗。受苦之後。還得大果無爲。何況卽能信行功德。灼熱無量。又『究[*]竟經』云「昔有
0693 勝意比丘。樂於小乘之行。坐禪精進。晝夜懃心。謗毀喜根比丘。行大乘巧行。
0694 其喜根路逢勝意。強爲説言云。所謂婬慾性。愚癡性。邪見十惡性等。皆是眞
0695 實道性。推求寂滅。無實無生。無所罣碍。卽清淨涅槃焉。其勝意情執堅
0696 牢。由生惡想。卽陷身入於地獄。受罪無間。劫數恒沙。苦盡還得。無爲大果。諸
0697 菩薩中。最爲第一。卽文殊師利菩薩是也」昔聞而得罪。尚獲聖果。文殊師
0698 利。況聞世尊親説。卽信無生。不惑非空。利於卽日。實亦遠益將來。故曰。與諸
0699 衆生。作將來業。
1435a01 「**爾時世尊。以偈頌曰**」不違情願説之。
0700 1435a03 「**佛子善諦聽。我今如實説**」「**佛子**」者。行佛之行。學佛之心。功如佛功。卽次補
0701 佛處。紹隆聖種。故言佛子。「**諦聽**」之義。如前釋。「**我今如實説**」者。但如之爲義。
0702 體離兩邊。越於色聲。非中非外。不柳不楊。卽性相如如。動寂俱妙。卽終日説。
0703 不乖於無説。不乖於有説。其説體亦無。無無不無。故經[*]云「其説法者。無示無説。其
0704 聽法者。亦無聞無得」故云。我今如實説。
1434a03 「**一切諸法性。本來無所動**」
0705 第一。先明一切諸法淨。「**一切諸佛性**」者。謂一切善惡法等。乃至有爲無爲。生住異滅。十
0706 惡五逆。五蓋五慾。罪福出入法等。推求實性。體體皆空。本實無生。今亦不滅。不生不
0707 滅。寂寞無爲。既所從來。動何所動。故曰。一切諸法性。本來無所動。

0708 0709 0710 0711 0712 0713 0714 0715 0716 0717 0718 0719 0720 0721 0722 0723 0724 0725 0726 0727

1435a04
「諸佛依貪瞋。如坐於道場」第二。就名明十惡空也。夫「貪瞋」者。三塗之苦因。死生之本也。今入巧度門中。卽乘之有三。一者觀照貪瞋。二者利用貪瞋。其親觀照者。觀照貪之生。必是依四大。假形而有也。內照地水火風之性。各各無識無情。不解起貪嗔之能。自他俱幻。心是無形。不依四大。不得獨成。貪嗔之實。和合幻有。推究卽無。知無亦無。道場無別。第三。利用貪嗔者。以大悲起也。貪救衆生之苦。可以貪嗔而利者。卽以貪嗔而利之。嗔挫其惡。貪與其樂。心無厭倦。累劫不疲。是名菩薩。利用貪嗔也。雖與俗諦同名。其理則異也。止爲能所俱遣。能遣亦亡。亡之又亡。出於言說。心證虛通無碍。卽貪嗔處其道場。故『無*行經』云「貪嗔癡如幻。幻不異三毒。凡夫自分別。我貪我嗔恚。如是愚癡人。則墮三惡道」其貪嗔性相。實寂滅虛無。碍何處碍。故曰。而坐於道場。

1435a05
「塵勞諸佛種。本來無所動」

「塵」者六塵。能汚慢心鏡。「勞」者勞苦。苦歷三塗。心既被六塵所慢。勞苦無生之內。今悟根塵。摠幻覺力。知由自心。心生塵生。心滅法滅。心無形段。不與塵俱。塵無情識。無能起染。直淨其心。卽塵無可塵。然「佛」者覺也。覺塵無體。覺心無心。覺覺無覺。故言佛種爲覺。覺一無去來之性。故言。本來無所動。

1435a05
「五蓋及五慾。爲如來種性」

「五蓋」者。謂覆蓋法身。「五慾」者。言能濁於淨識也。却照五蓋之體。蓋蓋之內無生。冥觀五慾之中。慾慾之生無體。卽非起非滅。無相無爲。證實卽眞如現前。寂用卽乘之利物。止爲能解。如如應物。故言。爲如來種也。『大*悲經』云。

1435a06
「常以是莊嚴。本來無所動」

「衆聖明了說。消融於毒害。煩惱先自無。何處有五蓋」止爲乘。於五蓋五慾。及諸煩惱。常澄清淨。不塵淨識。卽法身顯現。圓明出纏。故言。莊嚴也。照又知莊嚴之心。乃至微細。俱不可得。絶於思

測。故言。本來無所動。

1435a07
「婬慾及邪見」　案『巧*拙論』云。「婬慾者。罪垢之名。身心爲之。功能有四。一心行邪婬得罪。二心行正婬。無罪亦無福。有罪亦有福。三心行正婬。得小乘果。四心行淨婬。得大乘聖果」第一心行邪婬得罪者。如人盜奸他妻女。女人盜奸他夫。爲非當正位。心緣外垢。死入地獄。名得邪婬罪矣。第二心行正婬。無罪亦無福者。凡夫人常隨正位。情動相奔。婦人不想人夫。夫不外想他婦。無違内法。爾時無罪亦無福也。其有罪者。案『優*婆塞經』云「昔有夫妻。相奔行慾之時。其夫忽爾起。心想他端正女人之想。爲慾卽死。入地獄還得婬罪」矣。爲心緣外垢也。其有福者。如在家人。同情行慾之時。心不放逸。作行禮之意。夫不外想人婦。婦不外想人夫。又不犯三明六闇。能持十善。不闕六齋。不疑得生。欲界六天及四天下。故言亦福也。第三心行正婬。得小乘聖果。如在家優婆塞人。夫妻行慾之時。心無放逸。又法於一切時中。能觀五蔭虛假。證得空無我。解體和合皆空。雖復有時行婬。不廢得須陀洹果矣。第四明心行正婬。得大乘聖果者。明菩薩乘人也。言人已證。前小乘初果。遇善知識。廻心學大行菩薩行。摧須利益故。雖同世人行慾。觀照人法。體體俱空。三處俱寂。體知婬法。元來不生。今亦不滅。不在内外。不在中間。寂滅無爲。涅槃無別。元來不行。如何可斷。起唯法起。滅唯法滅。故經*云「若無增上慢。佛説婬怒癡。性卽解脱」矣。又經*云「分別見女色。此中無實」矣。但菩薩戒中。唯防心垢。不制於事。『涅*槃經』云「新學菩薩。隔壁聞女人。釵瑠環釧之聲。起於一微。念慾之心。雖身不交會。卽犯菩薩戒」矣。但行婬慾之時。譬若一莖之毛。破作百千億分。爾起一毫能所之心。卽輪廻六道死生矣。故經*云「心垢則衆生垢。心淨則衆生淨」其心實證得虛通無碍。虛通無碍。縱恒沙劫。受五慾樂。而不失戒。彌彰菩薩。巧度之能。

故『無*行經』云「若人欲成佛。勿懷於貪欲。諸法卽貪欲。知是卽成佛」矣。又答華*戲菩薩云「有人聞離聲則喜。聞婬欲聲則碍。不學佛法也」唯除小乘。比丘一色。不入此例矣。比見有人。未達無生大觀。眞如實淨之心。卽口說万法皆空。身行婬怒癡惡。此是斷滅外道。常沈生死。實非佛法內人。**「及邪見」**

**「邪見」**者。還僞迷眞之目也。亦可。無而執有。謂之爲邪。眼緣分別。謂之見也。冥觀邪體。內外中間。三處皆空。空空亦寂。邪卽爲正。故經*云「不捨八邪。得八解脫」矣。又論*云「解者卽一切法正。不解故卽一切法邪」連類推之。見亦如是。至如中邊。斷常之見。及六十二見。謂諸魔外道之見。皆是眼緣和合。假有名緣。緣緣自空。見實無見。況已見中無見。未見中無見。現見中無見。法見中無見。見中無見。故論*云「是眼則不能自見其體。若不能自見。云何見餘物」心亦無能見見。

1435a07
**「并餘結使等。究竟解脫相。本來無所動」「結使」**者。謂五利使五鈍使。五利使者。謂身見・邊見・邪見・戒結見・見取見是也。五鈍使者。一貪慾・二瞋恚・三憍慢・四無明・五疑心是也。及八万四千諸塵勞門。一切有爲法等。惣爲結使矣。悉是無明。覆於淨識。流注根塵。結因結業。使心取捨。故言結使也。今却照業因。勞結之中。根塵心境。中間內外。起滅皆空。知空亦空。空空亦寂。出於結業。故言。解脫本實無生。故言。本來無所動。

1435a08
**「諸佛從本來。常處於三毒。長養於百法。如成於世尊」**

**「三毒」**者。止是前文。貪瞋癡也。今重顯者。成三毒爲涅槃之義也。其經文雖重稱。三毒爲義。意卽色十惡五逆。及摧實內外之用。惣在其中。且明其常。義有之二。一是常因。二是果因。第一顯常因者。明世尊本行。因行之時。心常觀照。十惡三毒。根塵清淨。爲解脫之用。佛故引己脩學之因。教人如己

修學不異。勸常爲行。故名常也。第二明果常者。　爲衆生處。於生死
海中。常爲十惡五逆。三毒三塗之苦。佛以大悲願力。從本際亦同塵。事遊十惡。五逆
三毒等。常與之同事。方便誘引。皆令出苦。常無疲厭。故言果常。故言。諸佛
從本來。常處三毒也。故『無行經』云「貪慾恚瞋癡。無有能得者。是法皆如空。知
則成佛」矣。又菩薩内行。十惡五逆三毒。名菩薩阿闍提也。以般若淨心智惠。殺無
明父。害貪愛母。滅結使羅漢。破集諦僧。出覺相識之四。是名菩薩行。五逆無
間。不入三界獄。不同凡夫也。次明菩薩十惡者。爲三業清淨。斷除生滅之心。心一微生。
照之令滅。是名殺生。密行道而衆生不覺。是名爲盜。善能方便。通達佛道。是
名爲婬。假喩説法。令衆生利益。是名妄語。了知衆生。上中下根。望機與法。應説
無定。是名綺語。麁言罵訶。折伏衆生。入第一義諦。是名惡口。常爲衆生。説二諦
法。使入實諦。是名兩舌。樂度衆生。心無厭倦。是名爲貪。示貴衆生。得入佛道。
是名爲嗔。般若鈍故。迹無功德之相。深入禪寂。名之爲癡。菩薩内行之中。十惡
三毒。不同凡夫。而用此事也。菩薩常爲十惡爲益物。常處三毒。常利衆生。故
得鏡智圓明。無幽不燭。炅然明白。普照十方。三界獨尊。更無高上。故言。長
養於百法。如成於世尊。
1435a09
「諸佛從本來。無是亦無非。是非性寂滅。本來
無所動」　第三。明是非空。「從本來」者。從眞如性海之本也。爲熛風
所擊。幻有種種身形。所好不同。是非亦異。略明其二。　一則言論是非空。二則因
緣是非空。其言論是非空者。卽我自言是。彼道我非。卽是上有非。彼道
我非我。我自言是。卽彼非上有是。卽我之是非。亦無定矣。假使彼之所執。
欲定是非。亦如我之。無有異矣。卽彼之是。亦非無定矣。既彼此是非無定。

假有相生。故取譬環中。環中空矣。喩是非無有也。故立諸法。從本已來。
無是亦無非也。二則因緣是非空者。但衆生爲熏脩業力。幻有立之身。妄
識流住六根。生於是非之用。今觀照地水火風之色大。大之色無情。受想行
識之心。心心一無形段。故知無情之色。不解自作是非。無形之心。不可孤成。善惡
性非和合。寂滅空然。元來不生。動何所動。故云。是非性寂滅。本來無所動。
1435a11
**「一切諸衆生。實無有生滅。生滅卽涅槃。本來無所動」**　第四。明生死空。衆
生爲業。習熏風之力。漂於胎卵濕化之生。攬五蔭以成身。處分段而生滅。卽
謂眞生眞滅。由如睡夢之中。夢見身生。夢見身滅。及其睡覺。始知夢中。見
於生死。二種皆空。凡夫不達。死生之虛。亦復如是。止爲幻蔭。空緣幻聚。假有生
名。緣幻兩虛。生從何實。無生故死。亦是無生無死。眞空寂滅。無性之空。故言涅
槃也。故論*云「諸法不自生。亦不從他生。不共不無因。是故知無生」也。經*云「其生法爲。先
有竟生。先無竟生。若是先有。有已有訖更不生。若是先無。無已無訖更不生。已生中無
生。未生中無生。現生中無生。生者中無生。生法中無生。亦生亦無生。無中既無生。不可半
生半不生。如一沙中無油。衆沙中亦無油。是故雖生不生。雖滅不滅故。經*云「終日生
如無有生。終日滅如無有滅」也。達其理故。衆生現身生滅熟。是涅槃體。既寂
滅空然。動何所動。故言。本來無所動。
1435a12
**「一切諸法相。從緣無起作。起作性如如。本來無所動」**　第五。重明。「**法相**」者。卽破於人法之執也。謂善法惡法。不善不惡
之法。乃至有爲無爲。三界六道。四生之法相等也。悉是衆生。熏習幻惑。妄業之所感
也。物是緣塵幻合。幻得假名。緣名兩空。相實非相。故餓鬼見水而成火。魚見
水而爲家。空聖視濕而寶生。天見流而地起。以相推之。相實無定。夢時如有。覺竟

皆空。眼病既除。空花本寂。法相既非無非有。不滅不生。起作皆如。本無所動。故云。起作性相*如。本來無所動。1435a13「**一切諸文字。無實無所依。俱同一寂滅。本來無所動**」第六。明文字空。至理無言。言卽名起。名非形段。出口卽無。故託翰墨竹素。假爲文字。書經傳以記之。乃至龍章鳳彩之交。凝空雲篆之字。皆是假標。言像兆狀聲虛。根塵盡虛。文字何實。恰似虛承谷響。妄寫傳聲。夢記古今。表何表所不起。超於法塵。故經*云「非眞實義。在於言說」卽「言*語文字。皆解脫相」也。體既寂滅空然。故曰。本來無所動。1435a15「**說諸布施福。於中三事空。究竟不可得。施福如野馬**」第七。惣明六度空。第一先明檀度空也。「**布施**」者。梵言檀那。此言布施。以閉餓鬼門。故論*云「以知法性。無慳恡故。隨分行檀波羅密（ママ）」是故菩薩。行三檀。離三障。證三空。免三苦。得三樂。卽先明檀義者。第一資*生檀。施於財物。資益受者。生身故也。二者無畏檀。隨分施於安樂。慈悲一切。三者法施檀。量機施法。使有緣者。得離無明也。又清心反照。能所俱空。空空亦空。卽我塵淨。兼照受者空。卽彼塵淨。又證財物空。卽境塵淨。又照三事俱空。卽法塵淨。知空亦空。卽識塵淨。寂滅無爲。福無在處。陽炎不殊。故如野馬也。又就波羅蜜義中。碍通有四。一者是檀非波羅蜜。直解布施於財物。不知三事皆空。但施得福。終無智果也。二者非檀是波羅蜜。如人無有財物。直解運於心想。想於三事。供養十方。遍至一切。但招智果。無有施福也。三者非檀非波羅蜜。如人以強心之中。廣明財物。恒生懊悔之心。終無施福。亦無智果。四者是檀是波羅蜜。如人雖以財物布施。運心布想。供養一切十方。又體三事俱空。知空亦遣。混融大寂。渺濟眞如。非但獲於智果。亦乃施福無窮矣。菩薩内行之檀。亦有其四。一者菩薩爲了達。微細因果。常

於行住坐臥。動止施爲。談咲嘿嗔。飮食便利。常明方便。大施衆生。潤益群
有。心無所着。故名爲内檀矣。二者捨一切分別。出微細之得。故名爲檀。三者捨一切
文字。語言門戶。觀行方便名數。故名爲檀。四者捨一切身塵。苦樂財産。親愛
生老病死。元來不滅不生。無捨可捨。故名爲檀。了此一檀。而説六度。其亦六幻。知幻
六空。運運無爲。故云。施福如野馬也。「若説諸持戒。無善無威儀。戒性如
虚空。持者爲迷倒」* 第二明戒度空。「戒」者。止惡之嘉名也。梵號尸波羅蜜。
此名爲戒。以閉地獄門。論*云「以知法性。離諸過故。隨分行尸波羅蜜」其中攝
善法戒。攝律儀戒。攝衆生戒。五戒十戒等。皆以防非止惡。禁納愚蒙也。既衆生
身命。不眞緣塵。幻聚五蔭如炎。蔭蔭皆空。卽身空非空。命亦非命。身命悉空。
戒何所戒。望空持戒。迷倒實深。威儀自空。善亦無善。故云。戒性如虚空。「持」者爲
迷倒。又乘内行之中俱寂。照心空境。境智俱淨。能所永寂。寂滅無爲。無爲亦無。卽
無非無。惡無惡之眞。故名爲戒。是名眞實持戒。故『無行經』*云「若人分別戒。是則
無有戒。若有見戒者。是則名爲失戒」 「若見瞋恚者。以忍爲羈鞅。知瞋
等陽炎。忍亦無所忍」 第三。忍度空。「忍」者梵言羼提。此名爲忍辱。以閉阿脩
羅門。論*云「以知性無瞋恚。故隨分行羼提波羅蜜」乘於三忍矣。第一他惱辱。枉
被瞋打。罵辱等忍也。第二安受苦忍。受飢凍勞苦之忍也。第三法思惟忍。經於
一切善惡。邪正之法。觀於心本。無心可生。万法虚無。無法可受。名爲法忍。照瞋忍
同性。寂滅俱空。名波羅蜜。又照地水火風之色。色色之内無情。無情之色。實
無瞋無忍。受想行識之心。心一無形相。見形之心。亦無瞋無忍。和合性空。恰如陽炎
之空。忍於何忍。故經*云「若於忍辱音聲生利想。於瞋恚音聲生碍想。此則

不學佛法」故曰。知瞋等陽炎。忍亦無所忍。「**説諸精進業。爲增上慢説**」[1435a19]

第四明精進度空。「**精進**」者。梵言毘離耶波羅蜜。此名精進。以閉畜生門。論*云

「以知法性。常無懈怠。隨分行毘離耶波羅蜜」義卽志在榮懃。懃脩万行。不懈

不怠。不倦不疲。如虎銜兒。調於緩急。念念出身塵之碍。心心越景智之崖。彌

專彌精進。如進道内外常通。故言精進。其「**增上慢**」者。未得云得。未知云知。

增於高上。安然怠慢。故言。增上慢。此名佛法内死人也。對此死人。説於精進。故云。

爲增上慢説也。經*云「若無增上慢。佛説婬怒癡。性卽解脱」矣。又菩薩内行之中。

精進者。心無去來。去來相求。心不可得。謂之爲精。運運歸於法身。謂之爲進。

故言精進。故經*言「若於精進音聲生利想。於懈怠音聲生碍想。則不

學佛法」故言。爲增上慢説也。「**若無增上慢。無善無精進**」[1435a19]

爲有增上慢病。假説精進藥。增上慢病除。精進藥還遣。病藥二俱消。故

曰。無善無精進。「**若起精進心。是妄非精進**」[1435a20] 推求精進體。内外寂空然。

空中起精進。卽妄非精進。故『持*心經』云「身無所起。心無所起。卽勞強精進心」無

去來相。求心不可得。故名精進。故曰。若起精進心。是妄非精進「**若能心**」[1435a21]

**不妄。精進無有崖**」精進是無對。妄假設妄既無妄。精進亦空。知空

亦空。冥眞大寂。虚通無碍。故曰。精進無有崖也。明精進亦空。「**若學諸三**」[1435a21]

**昧。是動非坐禪。心隨境界流。云何名爲定**」第五明禪度空。「**三昧**」者。西國

言禪。此名爲定。用閉人門。論*云「以知法性。常無動亂。隨順行禪波羅蜜」欲求

聖道眞如。入於地位者。心須定惠之力也。非定無以發惠。非惠無以入眞。惠照

万境。同一眞如。實無動亂之異也。經*云「諸三昧數者。量是小乘出入定也」謂

繫心一境。棄捨攀緣。整息妄疑心。定出定還。動出動還。定動定相。隨交馳不
息。是心流境界之塵。故曰。何名爲定矣。若於菩薩行中。卽冥於動亂。終不捨
亂求定。捨垢取淨。若捨亂求定。得亂不得定。捨垢取淨。得垢不得淨矣。照
其万境。唯是一心變成。心外無境。心滅境滅。直淨其心。卽所常空。故能發惠也。
惠照貪慾嗔癡之內。婬邪恚嫉之中。乃至行住坐臥。飮食便利。及一切苦樂。煩
惱結使。有爲無爲。種種施爲。緣緣悉空。本實無生。今實無滅。能知亦寂。性
相皆如。如如亦空。卽無動無亂。動亂惣無。故名常定。是名眞如大定。亦名究竟
實定。論*曰「何名爲佛。常心爲佛。何名爲菩薩。常定心爲菩薩」由常定故。卽
定惠圓明。動寂俱妙。故寂而常動。無爲而能陟境。動而常寂。陟境不廢爲無。
無爲則爲。則爲無爲。豈有死生。定亂之殊。山谷市朝之異。卽一切皆定。故經*云「雖
種種讚歎禪定。而知一切法。是常定相」矣。能定亦定。 大正藏脫「**若學智慧者。是智**
**尋爲業。從業而有報。是則非相智**」 第六。明般若度空。卽遣於能智慧
之心。亡法執之病。示非安立諦之也。案『法*性論』云「以智性常無得。故隨分行般若
波羅蜜」此翻爲智惠彼岸到也。以閉天及二乘門。故摧爲安立諦。中卽有文字般
若。觀照般若。實相般若。但以智爲內能。慧爲外照。見三毒如炎。六度還空。
空淨無爲。超於滯着。至涅槃岸。故言智慧彼岸到也。恐能爲智慧之心。心塵未
淨。未極淨心之妙塵。於法身無相。故無相之相。是爲眞相。猶如一莖之毛。破作百千
億分。爾起一分能。智慧之心。卽爲法塵所汚。爲業所繫。淪於報形。故言。從業
而有報。卽是非智相。 大正藏脫「**智非文字說。亦復非因果**」 其眞之相。冥窅
離性離相。無知無不知。非口議之所議。非意覺之所覺。寂絶乎視聽之表。恍忽乎

有無之外。不可以因果窮。不可以文字説。越動寂滅。逾幽出微。同於法身。文言喪息。
故曰。智非文字説。亦復非因果。「不離是諸法。是名眞智相」（大正藏脱）　智相之眞。本
迹俱妙。寂照一切無相。同於法身。不見内外相。一相可相。不捨一切法。不着一切法。而能
鏡明諸法。匠引群生。使於塵勞。万法之中。煩惱死生之内。觀照罪福無性。六度
常空。五欲無生。是非常淨。俱同寂滅。万法皆如。不滅不生。無爲無碍。故『淨名經』*云「法
隨於如。無所隨故。法無動搖。不依六塵故」「設*至於地獄。加諸罪垢。及至畜生。無有無明」
故曰。不離是諸法。是名眞智相。「參羅及万像。一法之所印。云何一法中。而生種」1435a23
種見」　「參羅」者。衆多万品。「印」者契實也。言三界有生。但有形有靈。同一塵
假。皆於眞如海上。爲無明風所擊。擊起種種身形。逐浪而漂四生。隨見而沈六
道。莫不法身同一。一體眞如。眞如一然。故言。一法之所印也。慈父泣駕三車。悲孩弱喪
示。參羅元同一法。勸復一法。不踐參羅。卽是失本。得本忽窮子。返父復命。還無免
六道之長悲。離死生之大苦。故忉駭言。云何一法中。而生種種見。「一亦不爲一。」1435a24
爲欲破諸數。淺智之所聞。見一以爲一」　此四句。示非安立諦。遣於法執也。爲
衆生見。見相異聖人。爲教示法法不同。不同之法。煩多説一。令觀妙寂一。顯法體之
一。悟一終無見煩。見煩之病既除之。一除藥還遣。又遣不遣。運運靈通。病藥一時俱滅。
故言。一亦不爲一也。次明言論釋者。一若定者。一兩一重。處還生一。一名卽是二。從一生
二。從一生卽中有二。一中有二。卽非定一。復爲一從二。顯假得一名。一名既從二生。卽二中一。二
中有一。卽二非定二。既一二各無定所。既以定執。徒然不眞。不眞執以爲眞。經意將
爲淺智。故云。淺智之所聞。見一以爲一矣。「若有聞斯*法。常脩寂滅行。知行1435a25
亦寂滅。是卽*菩提道」　此四句。明其入果矣。「聞斯法」者。聞此經之法也。「常脩寂

**滅行**」者。戒常無妄念也。謂常一切諸法。天地生成。幻合聚散。四法六道。有爲無爲。及五蔭身塵。生住異滅。受想行識之中。地水火風之內。照見三毒無性。五欲不眞。十善非生。十惡焉有。六度如炎。威儀四空。見聞覺知。飲食談咲。違順苦樂等。俱一微動用。卽照根源。究竟虛無。夢幻非有。卽無生無滅。不僞不眞。寂滅無爲。涅槃常淨。故云。寂滅行也。其知寂之心。求不可得。其不可得。亦不可得。莫不冥超。識識融泯。智知運運。虛通浩然無碍。無碍之通。卽菩提道果。故云。知行亦寂滅。是卽菩提道矣。其三性中分別。故煩而不引。此明般若亦空。

1435a27 **「若欲證斯法。親近善知識。善學諸方便。度脫於群生」** 凡夫滯惡。情淪五欲之津。二乘滯善。凝心四諦之宅。俱爲善惡所縛。各非方便之眞。唯善知識。大人高起二局。處善不妨於惡。貪婬不異道場。處惡不廢無爲。三毒與菩薩不別。但爲事驚俗。善非善知識不裁。故須請方便於一如。等自他於淨法。寂照雙泯。體相俱融。則他無累劫之疲。度物滅所能之碍。故云。善學諸方便。度脫於群生。

1435a28 **「我今說此法。爲攝有衆生。若無我見者。究竟無所說」** 衆生爲妄業所纏。無明壘於淨識。不知五蔭虛幻。妄執身眞。內我俱生。外爲人執。實無有人。而生人想。實無有我。而生我想。卽根塵十八。三界死生。生死衆多。故號衆生之目矣。故佛對此我病衆生。說空無想之法藥。衆生必無我執之病。無想之藥無施。莫不病藥俱消。故言。究竟無有說也。故經*云「非眞實義。在於言說」也。但照口具七緣之內。緣緣之性自空。空非生有。卽說是無說。無說之說。說性常通緣感。卽與事濟便息。實亦無說。無說不說。故經*云「其說法者。無示無說。其聽法者。無聞無得」則若無我見者。究竟無有說。

1435a29 **「此是金剛句。決了諸**

0928 **邪見。一切外道輩。盡力不能壞」**　金剛之義。文已釋於前矣。又將金剛四能。
0929 喩此法句經之力矣。言此金剛句也。第一喩。不爲煩惱所壞者。明金剛之寶。堅*而
0930 且利。燒之不燋。擊之不壞。亦如心觀。煩惱之法。卽窮之性。無生捨之。不滅不生。不
0931 滅眞性涅槃。況復心境兩虛。內外無實。無實之心。卽內無可受。故言。不爲煩
0932 惱所壞也。第二明能碎壞煩惱。煩惱者。其淨智之心。是譬金剛之力矣。能碎
0933 一切有形之碍。至如煩惱欲生。卽却照根塵所起。證知心*空如幻。卽境空。煩惱不成。
0934 煩惱不殊陽炎。智照有形皆滅。故言亦能碎壞煩惱也。第三福者。但置少金
0935 剛於室內。能招寶物自歸。喩學者心證。金剛亦令。諸果報自至。不習天人之
0936 業。天人之福自歸。不學二乘之因。二乘之通附已。亦如柔治粟麥。不求穢草之多。
0937 而穢草衆矣。遂迢迢入地。運運法身。金剛大通。包藏万德。故言万德也。第
0938 四堅利者。若得金剛爲刃。投之於地。則下透地輪水輪。直至金剛之輪。而住
0939 矣。類學者心證。金剛則透。人天之輪。羅漢輪。緣覺之輪。直至菩薩地中而住
0940 矣。方茲法句經。決了之力。功能若此。故言。決了諸邪說也。則二乘無以測其智。天人
0941 不足以其儀。卽魔不可以猜其用。外道不可以測其智。故曰。一切外道輩。盡力不能
0942 壞。　1435b02 **「若有諸衆生。得聞如是經。雖在三塗中。究竟清涼樂」**
0943 **「三塗」**者。地獄餓鬼。畜生之類也。**「清涼」**者。卽聞經功德也。但衆生有緣之輩。得
0944 聞此法句。其經於中。方便未周。依脩之力。微少低債。未得受業。三塗但爲藏
0945 識之中。先有聞經種子。種子牙發。依脩力生。卽因佛因。卽行佛行。乘如解
0946 脫。究竟清涼。如勝意聞喜根之言。變三塗爲大樂。故云。雖在三塗中。究竟
0947 清涼樂也。　1435b03 **「若聞此經名。及解一句義。必生諸佛國。何況讀誦者」**

「若聞此經名」明此法句之功力也。「及解一句義」者。卽前一法之所印義也。金剛般若。以四句爲觀門。觀我人之病。此經以一句爲定。始万法同一眞如。眞如之一。亦冥我人之觀。還喪則知一不一。觀空不空。能知寂然。心師佛行。則隨類而生佛國。讀誦而行利他。卽水逐器而方圓。果從因而動息。故曰。必生諸佛國。何況讀誦者。「若有此經處。我恒在其中。爲護如是人。令得無上道」1435b04 此經力甚。金剛法身眞軌。隨是有經之處。如塔舍利全身。天人與脩羅。香花散其處。若有人受持法句。卽自顯眞如法身。法身卽讚佛同身。同身卽佛道。恒照冥於彼此之碍。故曰。我恒在其中矣。故知在一人。人貴動成。法界之身。在地獄地獄尊。是塔天人之敬。天人之敬。外輔法身。法身之通。內明內外。永得清夷用。卽虛通無碍。故曰。爲護如是人。令得無上道。「爾時世尊。說此偈已。普光大衆。得無生法忍」1435b06 世尊之說。緣感則興。事濟便息。故言。說此偈已。言「普光大衆」求眞異度。聽法燻心。覺至無生。超昇法忍。遍求三性之內。法忍之法無生。推求遍計性中。一寂無生無忍。又照依他性果。生忍寂滅俱空。次於眞實性中生忍。其眞若炎。縱對種種苦樂之境。種種諸法之中。幻若空花。證無所起。心無所起。謂之無生。又屬種種異法。種種神通。通照一空。能空亦寂。寂寂不照。不照寂寂。照寂希夷。卽內外無所受空。所受空故名法忍。無生法忍。入果初名。普光今證此眞。持驗經之勢力。普光大衆。得無生忍。「卽爲寶明菩薩授記品第十二」1435b07 夫至道無形。體非聲色。迷人尋遠三界。覺之近在一心。心通万法。俱通心隔。則參羅万隔。寶明既冥心聖道。力盡僧祇。無行不脩。無功不備。遂得法身。明大非*智。炅然空有。證消是非。常淨位惣。

極乎無極之極。窮乎無窮之窮。不住涅槃。不住生死。二俱不滯。利益無疲。卽無功之功。成乎大功。無德之德。成乎大德。故得名題。遠劫受記。將來事遂功成。故曰。寶明菩薩授記品第十二。1435b08「寶明菩薩。尋得授記。汝當來世。過八十万劫。當得作佛」習氣除難。小聖皆有。妄想叵盡。至佛始無。故顯十地。明其少多。如隔十重之障矣。故從歡喜。至于十地。如却重重漸明。故寶明更脩八十万劫之功。十重之障都盡。習氣永斷。號曰寶明如來。此明不成而成。故號之爲佛矣。然世尊暉明。鏡於今古。照大千之去來。指注戲成。的明因果。楡楊入道。策勵諸心。1435b09「號寶明如來」佛及寶明。義如前釋。如來之義。非自專於夢中。且案經*云「如來身者。從眞實生。從三明生。從六通生。從無量清淨法生」又『涅槃經』云「如來者。從六波羅蜜生。從三十七道品生。從十一空生。來至涅槃」故得乘眞如實道。來成正覺。而眞如寂滅。而影現去來。故名如來。1435b09「應供」「應」者用也。體無去來。宜冥應動。有苦則應。應無不拔。1435b09「正遍知」「正」者不邪之因。謂心無顚倒之碍。動用如如。卽大無不通。名之爲遍。細無不達。因之爲知。細達大通。常利古今。故言。正遍知。1435b09「明行足」高懸鏡智。謂之爲明。万法心行。謂之爲行。功成越於地位。行足超於涅槃。威振大千。熟成三界。故云。明行足。1435b10「善逝」「善」者慈照也。「逝」者悲往也。言聖人爲大悲。故不住涅槃。由涅槃故。不住生死。故能以悲引智。智無不通。以智遵悲。悲無不救。雖復眞宗。寂寞而影現往來。法利隨機。皆令福善。不善不果。故言。善逝。1435b10「世間解」論*云「諸天之中。諸地之內。其中人物。號曰世間」世間種種。善惡種種。施爲煩惱違。從十惡結使等。解了本來非有。同一眞如。不滅不生。涅槃眞性。解諸方便。潤益群生。乘之出纏。皆令超苦。

故言。世間解。1435b10「無上士」義直可解。1435b10「調御丈夫」經*云「此土衆生。剛強難化故」以
若干種法。而調御之「譬*如象馬。〔亻＋龍〕戾不調。加之楚毒。乃至徹骨。然後調伏。調*
伏之方。略摽其四。一者爲説善法。令其信佛法僧。福田之勝。乘之解脱。出到無爲。此
如觸其毛。二者爲説下苦之法。言人但有身形。卽生老病死。脩善受福。脩惡受殃。
奴婢貪窮。醜形卑陋。如觸皮也。三者爲説中苦之法。言人於病死之前。慳貪諂佞。
沈淪餓鬼。無聞飲食之名。及畜生中。受鞭之痛苦。苦傷觔力。口障心知。如觸其
宍。四者爲説上苦之法。衆生爲滋。成受地獄之苦。燒煮燃割處。火坑之中。渴飲洋
銅。飢飡炎鐵。無間受苦。永劫不窮。唯悲唯酸。受苦無盡。如此觸其骨也。摧爲
四觸。折伏其麁。迴向心生。故名調御。言「丈夫」者。「丈」者長也。言能具恒沙万德。長進
法身。出纏皓然無碍。故言長也。「夫」者扶也。言能以僧祇善福。扶助三身。應化塵
沙。利他無碍。故名。丈夫調御。1435b10「天人師」佛惣四生之師也。據佛涅槃之時。不問
天龍鬼神。及諸畜生。蜂蟻蜣蜋。蚰蜒百足。種種雜類生等。皆來集會。湊佛
涅槃。約以天人。最爲上首。爲能發菩提心。故稱。天人師。1435b10「佛」題目已釋
1435b10「世尊」婆伽婆義中釋。1435b11「時有衆生。純一大乘。更無聲聞。辟支佛名」
譬以圖龍龍降。學鳳鳳遊。物以群分。方以類聚。卽衆*生之類。是菩薩淨土
也。發菩提心。是菩薩淨土。菩薩成佛時。菩提心衆生。來生其國等類也。
菩提之心。心無去來之相。寂照万法。同一無爲。無正無邪。非大非小。非無非有。一淨
眞如。能所常空。涅槃常淨。不見有聲聞。辟支佛之行。國土純淨。若斯故曰。
更無聲聞。辟支佛名。1435b12「國土嚴淨。過無量壽。百千万倍」其「國土嚴淨」
者。就嚴土之中。略明其四。一者。實性淨土。以法身眞如之境。爲淨土也。二者。報淨

土。以蓮華法藏。報身之境是也。三者。化淨土。以足指案地。化而成之是也。四者。事淨土。以彌陀境中。稱爲無量壽者是也。其「**無量壽**」者。由是應身。應身之身是有爲。有爲有敗。就於形相之中。稍爲長遠。故稱。無量壽。仍是事法。事法既非究竟。故稱爲劣也。今依此經。脩學脩實。法性淨土。究竟法身。之境無爲。無爲無敗。其淨穢一。無方所觸類。皆成涅槃。大無不苞。細無不入。非淨非穢。非異非同。不去不來。無生無滅。希夷乎視聽之表。寂寞乎測度之外。此爲冥實淨土。究竟涅槃。過無量壽。百千万倍。「**與諸菩薩。授記已。*便欲捨坐**」1435b12

緣待而興法橋。緣濟而超捨筏。故言。便欲捨坐。「**傳持品第十三**」1435b14　夫至道無言。言則名起。理不自顯。因言必通。故思魚兎者。必假筌蹄。學聖道者。還資聖説。故履八字。而超九劫。曉一句越苦恒沙。假四天下之眞金。未足經之福力。必去衆生。万惡之病。漂流八苦之殃。宣之爲經。不説而説。但以法量人。起道在人。興人道相弘。運歷古今。傳持不息。聖種紹隆。代代常行。故曰爲傳持品矣。

就此品中。文含四意。第一。問文殊問經行處。第二。世尊兩喩答之。第三。校量功德多少。第四。順顯聞經宿業。文標四意。此品。崇成方恒。日月遁明。明而永照。久攸天長。力修而度運。故曰。傳持品。「**爾時文殊師利菩薩。前白佛言。世尊。此經當來。在何等人手。以何因緣。得聞此經**」1435b15　文殊師利。謂問此經。是決了大乘。合在何人之手。宿種何業。得預今生。得聞請示往緣。知其殖本。「**佛言善男子。此經甚深。難可得聞。譬如金剛。一切凡夫。不能覩見。唯除帝釋。此經亦爾。聲聞緣覺。之所不見。唯除菩薩**」1435b16　此十二句。明經體大。難悟第一。喩金剛爲喩。喩此經之法大體。凡夫喩二乘。帝釋喩菩薩也。爲此經超出五

乘。孤標一實。深爲深妙。聞則難聞。故取譬金剛。明此經之理上也。金剛是天中上寶。
處須彌之巔。四面而成山。帝釋宅而成。固凡夫生身下地。不可以目覩金剛。故凡
夫不能覩矣。此經亦如上寶也。處越五乘之巔。運四心而成高。菩薩定之而成。
固二乘生心。釋善不解。善惡雙融。不見煩惱。卽是菩提。故言。聲聞緣覺。之
所不見。唯除菩薩見。「譬如師子。一切禽獸。無敢向者。唯除龍王。此經亦爾。
聲聞緣覺。斷絶悕望。唯除菩薩」第二句。明此經理妙難通。引師子
威爲喩矣。言師子於諸獸之中。最猛而奇健也。方此經之力勢。於諸理中。亦
最實而眞健也。師子一發吼聲。百獸惶其腦裂。莫不兆形。四極之走。匿跡
幽深。譬二乘之人。覩大法而惶悚。唯有天大龍王。飛空下雨。不驚師子之吼。方
於菩薩之智而高健。不驚大法之眞實也。量爲此經。是出生死之實言。逆
凡尊於小善。以度還令。棄捨三毒。翻爲道場。涅槃共生死非殊。十惡與菩
提不別。菩薩觀而頂受。卽能行之利人。二乘覩而心惶法懼。聞而棄捨。故龍
王用方菩薩。諸獸以譬聲聞。聞寂絶歸依。故曰。斷絶悕望。「假使有人。純以眞金。滿四天下。以用布施。不如聞此經名。得福万倍」
此六句。第一校
量此經。功德無窮。廣施多金。不如及也。縱施滿四天下之眞金。止益此宍身。資養
宍身。爲汚坌之福。不超生死之纏。故施金之福劣矣。若人不聞。不見此經。燻類
而成種。種成是法身之福。法身爲究竟涅槃。涅槃卽智果眞常。故聞經勝矣。
故言。聞此經名。得福万倍。「假使有人。純以七寶。作諸床榻。以頗梨衣。供養衆生。滿閻
浮提。具於一劫。不如聞此經名。得福万倍」前言捨金。直明財施。施仍局故。此
法句再以校量。言惣用七寶。作諸衣服臥具。四事供養。一切賢聖。及諸衆

生。超於劫數。其福再廣。亦不如聞此經名。福利難比。爲此經是。解
脱道場之眞軌。出生死之實言。意逆者常淪生死。信向者常超解脱。
是以校量優劣。聞施兩田。顯示將來。「1435b25若有善男子。善女人。得聞此經
者。當知是人親侍。無量諸佛。殖衆得本。乃能得聞」此七句。顯聞
經宿緣業也。魚子沈於土石。緣得水而還生。大乘薰於賴耶。遇此經而種
發。故勝意謗喜根之説。罪而還聖。有威儀毀淨。威儀之語。苦而道成。
故知金剛之性不摧。眞如之性非壞。經*云「若人聞此章句。能生信心。以此爲實者。
當知是人。不於一佛二佛三四五佛所。而種善根。已於無量百千佛所。殖於善根」今
得聞法句眞經。皆多身宿緣業。供養諸佛。福多所以。今生得聞也。
「1435b27善男子。此經當來。至八地菩薩之手」此三句。顯此經之在處也。知蹄窪之中。不居
鱣鮪之聳。培塿之峭。不滋松桂之萇。爲此經至眞。極微極妙。非二乘之敢視。
非新學之輒通。決弘之正。古今還資。八地之口。其地者名不動地。入無功用道矣。
能爲體大。寂妙契眞宗。又無心境。虚照自融。又無形於化。而星塵法界。又云。證無
生法忍。照一切万法。無心可生。謂之無生。顧一切万法。無心可受。故言法忍。恐悲救微
聞。故付囑此經。弘之利物。楡楊聖道。誘引將來。故曰。此經當來。至八地菩薩
手。「1435b28護經如眼寧喪身命不怠*品第十四」德彌盛者。不滯生而棄利。
識彌遠者。不塵心而道存。存道亡心。心非滅矣擇矣。釋滯遺形。形非極矣。不滅不
極。忽道之則。不利不存。無爲之眞。故字非捨之方。捨之而聖求眞。非出髓之剋。
出之道成。故遵經。若護眼之遵。重法甚憂身之重。故眷戀於軀命。不懈
怠於斯經。則軀命捨。而法身常懈怠亡。而鏡心遠。故曰。護經如眼寧喪身

命不怠矣。就此品中。惣一十九句。圓成一卷之經。就此文中。義開三別。第一先勅後校。第二顯師資兩眞。第三顯衆。及鬼神各各。奉行歡喜。具此三意。此品云。成爲對妄。逐空花鏡。多於聞一法。捨超船喩。極滯説於無。言滯説之病。必除無言之能。還遣遣之。又遣空不住。空不遣不空。心行處滅。卽熟大千。於不道之道。成三界。於不如之如。出六道之長悲。越死生之大苦。文相之次。故言。第十四品矣。

1435b29
「佛告諸大衆。及寶明菩薩。汝護是經。如護眼目」　此四句。將明目重校量。經之福勝也。故涉大壑者。匪方舟不濟。遵形骸者。非眼目不二。故出於苦海。非此經不超。證法身者。非此經不進。故令新學之輩。護經如眼。重法輕身。善知識以決疑。疑得除而淨解。解淨則法身通。照淨卽法眼從。明故五眼。依經而惣成。五眼無經而惣欽。眼淨明能引智。照冥於法身。故曰。護經如眼目。

1435c01
「寧喪身命。莫於此經。而生懈怠」　此三句。再引命。以校量此經之福。至如信好和。由起梁而詣死。徵忠剋効。尚刳身而納肝。況乎體上。空無視卮。形如逆［栓－王＋衣］。玄崇實道。寧夕死而朝聞。縱日三捨。恒沙之身。不及聞經。四句積劫。亡身捨命。不如持此經名。故不惜幻身。以得常身。不倦促命。以安常命。捨是人天深福。終成不離死生。持此經是菩薩。無爲終預。涅槃常樂。故曰。寧喪身命。莫於此經。而生懈怠。

1435c01
「若有衆生。於經*中。生信心者。當知是人。眞佛弟子。無有疑也」　此六句。顯師資並眞也。「信心」者。止是經初。事中理中兩信也。其事中信者。信生死眞生死。涅槃眞涅槃。罪福眞罪福。言淨穢一切法。皆實體。卽情生取捨。此是下劣凡夫。名爲顚倒心中信也。其理中信者。信生死無生死。涅槃無涅槃。是非無是非。淨穢非淨穢。照一切万法。皆無實體。眞淨其心體。知三

界一如。名不顚倒心中信心也。今於此經中。卽能信受。隨分現行。此菩薩基人。故曰
能生信心也。云欲得人天。行人天行。欲得二乘。行二乘行。欲得菩薩。行菩
薩行。欲得作佛。行佛行。故言行合道同矣。又『究*竟經』云「行佛行者。行如佛行。
心如佛心」佛心卽淨。淨增明明無碍。無碍之眞。目之爲佛。故能匠成万物。物復具
眞。使物越諸界纏。出諸疑難。紹隆聖種。得佛之眞。卽如佛之如。如佛之子。故
言。眞佛弟子無有疑也。1435c03「爾時世尊。說此語已。一切大衆。天龍八部。皆各歡
喜。如法奉行」說經已終。聖道隆化。緣訖万事畢。轉常苦爲常樂。變無明
爲大明。「衆及天龍八部」者。卽金剛藏菩薩。爲内外兩釋也。一者。形位八部。納内行
而標八位矣。卽沈明内天。「天」者方其高淨之義也。「龍」者方其淨用也。明根已
純熟。菩薩常能。淨於八識之中。用不乖眞。再德親聞此經。卽動寂俱妙。無
令一微妄動。塵於八識之中。常當衛護法身。不令習氣之能動深。故一行之
中。中具天龍八部。佛令說此法句經已。能令内外大衆。天龍八部之流。各各無不
獲利。隨其本性。動用起作。皆能行成。隨其行力功能。内外心行有八。其量
行能。爲號不問。雜類人天。但八中之行。故惣目之。爲天龍八部矣。一者天。外曰止。
是三界所居天。十善禪定之境也。内曰天爲淨也。行證清虛。廣覆融心。遍照
十方。自淨淨他。常能益物。故言内天也。二者龍。外曰龍有三種。有天龍有地
龍虛空龍。性乃雲行雨施。澤潤群物。内曰龍者。明淨用也。言心能布大慈
雲雨。智恵之内雨。兩於他自身田。使法牙增長。故言内龍也。三者。梵言夜叉。
外曰亦有三種。天上空中地上。此言輕健也。夜者無明。叉者愛也。爲能照内無明。
外袪愛着。翹心輕健。動寂空然。名内夜叉也。四者。梵言乾闥婆。外曰此言。寶

香山中。神而住也。亦是天之樂神也。身現黑相。而冲天矣。内曰。以無相心爲高
遊。以禪定樂爲伎樂。以菩提心爲香。以淨五蔭山而住也。故名内乾闥婆矣。
五者。梵言阿脩羅。外曰。此云不飲酒神也。此是六趣之道。男醜女端正也。内曰。
行者不飲。五欲無明之酒。挹解脫之禪漿。身馳六通。明心普照。名内阿脩
羅矣。梵言迦樓羅。外曰。此言金翅鳥神也。捕魚龍而食之矣。内曰。行能内觀心
本。吞亡三毒之龍。永出三塗。休心無相。故曰。迦樓羅神也。七者。梵言緊那羅
者。外曰此言人非人也。爲頭上有角矣。亦是天之樂神。小不如乾闥婆矣。内曰。
行能内奏。六波羅蜜之樂。清淨六根。身心六乘。超然六度。名緊那羅也。八
者。梵言摩睺羅伽。外曰大蟒神也。是地龍之類。以腹而行矣。内曰。行能吞
諸見内毒。不生界身。而遊俯心慈敬。名曰内摩睺羅伽也。此等八部門之位。或
在天龍人神之中。爲各得親聞。法句經力。發動宿殖緣業。而成八行也。此則
轉愚成聖。轉闇爲明。變有爲而無爲。擇利而常利。神等遵其極益。發
大悲心。若有受持。法句經人。必願常親侍衛。又優婆夷聞經。覺始終相。比
丘聽訖。悟究竟無生。寶明菩薩。得授記。將來普光莊嚴。證無生法忍。
持此經之勢力。力大還能大成。非唯揮慈鏡於永劫。奮成功於卽日。各
得無碍。誰不極歡。故曰。一切大衆。及天龍八部。皆大歡喜。
其「**如法奉行**」者。　但爲義前已釋於題目矣。次言「**如**」者。是一實之孤
稱。法身之惣目也。論*云「性淨之理。名之爲法」卽偈答之中。一法印也。明此法體。
卽非無非有。非色非聲。不去不來。非生非滅。希夷乎視聽之表。寂寞
乎是非之外矣。今則研窮竅此經。專精偈旨斯實。今諸學者。雖遊身

1127 衆苦之中。美悪死生之内。宜常照其能所三處。觀空知空亦空。空處滅
1128 空。卽無染無着。無實無爲。卽絶衆相於無空之空。淨能知於本識之
1129 識。能識卽煥乎。大通之境。夷融乎寂滅之場。遂乃極盡無爲法身。澄
1130 湛故言法也。故法*無衆生。離衆生垢故。法常寂然。滅諸相故。法隨於如。無
1131 所隨故。言如法矣。次言「奉行」者。是處滅心行之義。謂專心如聖。尊此經之法。
1132 奉而行之。〔与(?)／心〕而學之。法而依之。依而證之。行於不行。不行而行。無所不行。亦無不行。
1133 行無聞矣。亦無依無不依。依無失矣。不聞不失。混道之實。不學不依。無爲同
1134 之。不同而同。同常利焉。不實而實。恒恒成矣。遂得自他俱利。大抜群生。運
1135 載古今。俱超彼岸。故百*陽歎曰「常善救人。而無棄人。常善救物。而無棄物」
1136 故能父恩万有。亭毒大千。因去果來。皆如此法。故云法也。又則不奉而奉。奉
1137 而彌遵。不行而行。行而彌急。亡尊喪急。始終相襲。亦移於始終。而智消
1138 相融。則寂矣滅矣。而功泰矣。渙得永淨。心源則如常矣。故曰。一切大衆。天龍
1139 八部。皆大歡喜。如法奉行。
1140 佛説法句經一卷

## 校異並びに註

### 凡例

一、大正蔵 No.2901『佛説法句經』との校異を示す。

＝は、上の字が本写本、下の字が大正蔵本を示す。

＋は、（　）内の字が大正蔵本では加わることを示す。

ナシは、本写本にあって、大正蔵本にはない字を示す。

一、大正蔵に同定できた引用経論については、その所在とテキストを示す。

一、大正蔵に同定できない引用経論については、類似のテキストを含む経論とテキストを提示する。

0001 P本三五四行目

0010 「大」＝「天」

0011 「生」＋（於）

0025 經云「其説者。無説無示。其聽者。無聞無得」＝T14n0475『維摩詰所説經』p0540a18「夫説法者。無説無示。其聽法者。無聞無得」

0033 「音」ナシ

0054 「何謂三處」ナシ

0061 「菩薩」ナシ

0083 「質」＝「相」

0108 偈云「諸行無常。是生滅法。生滅滅已。寂滅爲樂」＝T01n0007『大般涅槃經』p0204c23「諸行無常　是生滅法　生滅滅已　寂滅爲樂」

0111 「由」＝「猶」

0112 「明」　写本は「朋」

0114 論云「是眼卽不能。自見其己體。若不能自見。云何見餘物」＝T30n156『中論』p0006a06「是眼則不能　自見其己體　若不能自見　云何見餘物」

0142 「若能識」　衍字？

0152 經云「知諸法如幻相」＝T14n0475『維摩詰所説經』p0540b05「知諸法如幻相」

0161 經云「當知擧足下足。皆從道場來」＝T14n0475『維摩詰所説經』p0543a06「擧足下足。當知皆從道場來」

0161 「復次」ナシ

0170 ＊「　大正蔵第八五巻の『法句経』には次の経文がある。「善男子。意卽爲內。法卽爲外。心處中間。意不自知。法不自名。心無形相。三事俱無。是故意不自知。常處於內。法不自名。常處於外。心無形相。實無處所。意不自知。屬諸因緣。緣非知相。意卽是空。法屬意時名法爲法。若意性空法亦無實。何以故。從空意知體無性故。善男子。知意是空。於內無染。知法是空。於外無著。知心是空。滅於諸行。知意屬緣。知無自性。意終日知猶爲無知。法性屬意而不自名。名終日名猶爲無名。以斯空意常知空法。內外遍觀心不可得。是故菩薩應作是念。若意與法非爲空者。意住於內不應辯外。法住於外不應從意。意是有住法亦有住。心是無爲不應在有。何以故。有之與無性相違故。是故當知。意法與心虛空無礙」この経文については大正蔵第八五巻所収 n2902 の『法句經疏』にも注釈がされていないようである。

0170 「看」＝「視」

0170 「渴」＝「得」

0170 「急向之走」＝「急走向之」

0175 「想」＝「相」

0177 經云「二乘凡夫。如犬逐塊。但知齧塊。不解齧人。不知塊從人發」＝T12n0374『大般涅槃經』p0516b13「凡夫惟觀於果。不觀因緣。如犬逐塊。不逐於人。凡夫之人。亦復如是」引用文のままの経典は見当たらない。

0182 智者語曰。「心外無法。但妄想耳」引用文のままの経論釈は見当たらない。

0186 「想」＝「相」

0191 「因緣。轉覲」＝「屬緣轉觀」

0201 「識中無識」朱による書き入れ。大正蔵校異　甲本（S.二〇二一）にはある。

0202 「受想行識」＝「陰界諸入」

0206 「万」＝「方」

0216 「若男若女」＝「善男善女」

0222 □□＝P本　空白

0233 「＊」＝P本　空白

0243 「椒」＝「蕉」

0266 「道」朱による書き入れ。

0276 「子」＝「女」

0276 「目」＝「因」

0276 「妄」＝「忘」

0278 「已」＝「也」

0286 「近」＋（真）

0298 「如是斯經」＝「如斯」

0304 「正」は則天文字？

0312 「無」ナシ

0328 『佛性』云「善知識者須具二德一者聰慧二者慈愍直有慈無慧愛子病死不能療治直有慧無慈不療怨家之病二德俱備是名善知識」＝T31n1610『佛性論』p0800b06「能安善友。置於善處。若有能備。此七德者。可堪依止。爲善知識。若總論此七。不出三義。一樂憐愍。二聰明。三堪忍。三義若少一種。則非善友。若但憐愍。不能聰明。譬如父母。雖念子病。不能救治。若但聰明。無慈愍者。如怨家師。不治他疾。若不能堪忍。則自行不足。憐愍聰明。亦不成就故。離雖七種。合不出三。能施尊重可信」

0331 經云「智度菩薩母。方便已爲父」＝T14n0475『維摩詰所說經』p0549c02「智度菩薩母　方便以爲父」

0331 又云。「寂照以爲父。照寂以爲母」＝寂照と照寂の使い分けは T24n1485『菩薩瓔珞本業經』にある。

0336 「目」＝「因」

0337 論云「非唯形骸。有聾盲之哉」＝X34n0638『法華經玄贊要集』p0734a16「莊子云。豈唯形骸。有聾盲者哉」

0351「德」＝「得」

0351「以深心爲花鬘。以慚愧爲上服」＝T14n0475『維摩詰所說經』p0549c17「慚愧之上服　深心爲華鬘」

0353「渡」＝「度」

0367「挽拔」＝「梳機」

0377「漬」＝「清」

0377「牙」＝「身」

0392「將」＝「得」

0395「能破汝等」＝「破汝」

0412經云「菩薩病有何因起。曰以大悲起」＝T14n0474『維摩詰所說經』p0525c14「菩薩病何所立。菩薩病者以大悲立」

0416「菩薩大衆」＝「與諸天衆」

0419「裁」＝「栽」

0422「以」＝「已」

0427「無心方便。親近供養」＝「便方親近」

0434「大」＝「天」

0434「跳」＝「悼」

0434「蘇」＝「甦」

0439「亦皆」＝「皆亦」

0439「外典」不明

0447「主」＝「土」

0451「相」＋（也）

0454「方」＋（去此）
0456（報）＋「善」
0459「大」＝「天」
0459「至」ナシ
0460「往」＝「住」
0462「大」＝「天」
0462「各」＋（皆）
0462「頃來」＝「來須」
0467「明」＝「相」
0469「大」＝「天」
0470「耳」＝「到」
0483「不」＝「否」
0492「所諮」＝「諮請」
0497「所」＝「不」
0510 經云「煩惱是道場。知如實故」也＝T14n0475『維摩詰所說經』p0542c28「諸煩惱是道場。知如實故」
0510 淨名云「若無增上慢。佛說婬怒癡。性卽解脫」矣＝T14n0475『維摩詰所說經』p0548a17「若無增上慢者。佛說婬怒癡。性卽是解脫」
0523 經云「不着佛求。不着法求。不着僧求」＝T14n0474『維摩詰所說經』p0526c27「夫求法者。不著佛求。不著法求。不著衆求」
0524 論云「有求皆苦。無求乃樂」＝［經云「有求皆苦。無求乃樂」］という引用は検索して出てくるが典故は不詳
0528 經云「一念嗔心。能除八百功德」＝T10n0279『大方廣佛華嚴經』普賢行品 p0258b02「若菩薩於諸菩薩。起一瞋心。則成就如是等。百萬障門」

0528 論云。「有仙人仙道～」＝不明。一応「人皆死盡」までを引用文とする。
0538 楞伽經云「外性非性」＝T16n0670『楞伽阿跋多羅寶經』p0486c19「外性非性」
0543 「事」＝「法」
0548 「窄」＝「牢」
0548 「渡」＝「度」
0556 「備」＝「修」
0564 「言」は「凡」？
0571 「備」＝「修」
0572 「乘」＝「來」
0573 論云「神者用也。通者不碍也」＝不明
0574 「陰陽不測。謂之爲神」＝『易經』繫辭傳上
0574 經云「菩薩以具五通。或云六通。或言一通」＝不明
0582 「衣楞伽寶」＝「依大智寶」
0583 「法」＝「妙」
0592 「衣」＝「依大」
0593 「除」ナシ
0599 「所」＝「有」
0602 「窄」＝「勞」
0603 「勞」は經文を引く中では「窄」とする。
0608 （依）＋「善」

0611 經云「觀識風矣」＝不明
0613 「遊於」＝「遍觀」
0613 （依）＋「善」
0613 「者」ナシ
0614 「於」ナシ
0621 經云「諸魔外道。皆吾侍者」＝T14n0475『維摩詰所說經』p0544c07「一切衆魔。及諸外道。皆吾侍也」
0626 「有如是」ナシ
0630 「惜」＝「借」
0630 「受」＝「壽」
0633 「内」＝「問」？
0635 經云「欲得淨土。當淨其心」＝T14n0475『維摩詰所說經』p0538c04「若菩薩。欲得淨土。當淨其心」
0636 「三界虛妄。唯心所作」＝T32n1666『大乘起信論』p0577b16「三界虛偽。唯心所作」
0647 經云「法無受命。離生死故」＝T14n0475『維摩詰所說經』p0540a05「法無壽命。離生死故」
0650 「須達拏太子之類」＝T09n0278『大方廣佛華嚴經』p0517a01「復次菩薩摩訶薩。布施妻妾男女。如須達拏太子」
0652 「法喜之妻。慈悲之女。法侶眷屬。誠實之男」T14n0475『維摩詰所說經』p0549c04「法喜以爲妻　慈悲心爲女　善心誠實男　畢竟空寂舍」
0655 「起」＋（於）
0658 經云「我靈鷲在中。并餘住處。常以種種形容。方便教化。或作天魔外道。下劣凡夫。愚鈍貧窮。屠兒沽酒。賃婦婬女。無所不爲」＝不明
0665 「二」＝「三」カ
0683 「爲」＝「謂」
0689 （白佛）＋「言」

0690 0690 0692

「説」＝「示」

『大悲經』云「大乘之法。由如鬱金山頂。有栴檀之樹。忽風吹動。逆風四十里香。何況順風」＝T85n2880『究竟大悲經』p1378b26「譬如欝金山頂。有旃檀樹。急風吹動。其有香氣。逆風四十里。何況順風」

『究竟經』云「昔有勝意比丘。樂於小乘之行。坐禪精進。晝夜懃心。謗毀喜根比丘。行大乘巧行。其喜根路。逢勝意強爲説言云。所謂婬慾性。愚癡性。邪見十惡性等。皆是眞實道性。推求寂滅。無實無生。無所罣碍。卽清淨涅槃焉。其勝意情執堅牢。由生惡想。卽陷身入於地獄。受罪無間劫數。恒沙苦盡。還得無爲大果。諸菩薩中。最爲第一。卽文殊師利菩薩也」＝不明『究竟大悲經』か　参照:T15n0650『諸法無行經』p0759a23「爾時有菩薩比丘。名曰喜根。時爲法師。質直端正。不壞威儀。不捨世法。爾時衆生。普皆利根。樂聞深論。其喜根法師。於衆人前。不稱讚少欲知足。細行獨處。但教衆人。諸法實相。所謂一切法性。卽貪欲之性。貪欲性卽。是諸法性。瞋恚性卽。是諸法性。愚癡性卽。是諸法性。其喜根法師。以是方便。教化衆生。衆生所行。皆是一相。各不相是非。所行之道。心無瞋癡。以無瞋礙因緣。故疾得法忍。於佛法中。決定不壞。世尊。爾時復有比丘法師。行菩薩道。名曰勝意。其勝意比丘。護持禁戒。得四禪四無色定。行十二頭陀。世尊。是勝意比丘。有諸弟子。其心輕動。樂見他過。世尊。後於一時。勝意菩薩。入聚落乞食。誤到喜根弟子家。見舍主居士子。卽到其所。敷座而坐。爲居士子。稱讚少欲知足細行。說無利語過。讚歎遠衆樂獨行者。又於居士子。前說喜根法師過失。是比丘不實。以邪見道。教化衆生。是雜行者。說婬欲無障礙。瞋恚無障礙。愚無障礙。是居士子。利根得無生法忍。卽語勝意比丘。大德。汝知貪欲爲是何法。勝意言。居士。我知貪欲是煩惱。居士子言。大德。是煩惱爲在內在外耶。勝意言。不在內不在外。大德。若貪欲不在內不在外。不在東西南北。四維上下。十方者。卽是無生。若無生者。云何言。若垢若淨。T25n1509『大智度論』p0108a04「是時勝意菩薩。身卽陷入地獄。受無量千萬億歲苦。出生人中。七十四萬世。常被誹謗。無量劫中。不聞佛名。是罪漸薄。得聞佛法。出家爲道。而復捨戒。如是六萬三千世常捨戒。無量世中作沙門。雖不捨戒。諸根闇鈍。是喜根菩薩。於今東方。過十萬億佛土作佛。其土號寶嚴。佛號光踰日明王。文殊師利言。爾時勝意比丘。我身是也。我觀爾時。受是無量苦」

0708 0703

經云「其説法者。無示無説。其聽法者。亦無聞無得」＝T14n0475『維摩詰所說經』p0540a18「夫説法者。無説無示。其聽法者。無聞無得」

「坐」＝「座」

0715 『無行經』云「貪嗔癡如幻。幻不異三毒。凡夫自分別。我貪我嗔恚。如是愚癡人。則墮三惡道」＝T15n0650『諸法無行經』p0751b03「貪瞋癡如幻　幻不異三毒　凡夫自分別　我貪我瞋恚　如是愚癡人　則墮三惡道」

0724 『大悲經』云「衆聖明了說。消融於毒害。煩惱先自無。何處有五蓋」＝T85n2880『究竟大悲經』p1374b21「衆聖明了說　銷融於毒害　惱惱先自無　何處有五蓋」

0728 『巧拙論』云「婬慾者。罪垢之名。身心爲之。功能有四。一心行邪婬得罪。二心行正婬。無罪亦無福。有罪亦有福。三心行正婬。得小乘果。四心行淨婬。得大乘聖果」＝現在不伝の論書？

0733 『優婆塞經』云「昔有夫妻。相奔行慾之時。其夫忽爾起。心想他端正女人之想爲慾。卽死入地獄。還得婬罪」矣＝不明

0742 經云「若無增上慢。佛說婬怒癡。性卽解脫」矣＝T14n0475『維摩詰所說經』p0548a17「若無增上慢者。佛說婬怒癡。性卽是解脫」

0743 經云「分別見女。色此中無實」矣＝T15n0650『諸法無行經』p0751b19「分別見女。色此中實無女」

0744 『涅槃經』「云新學菩薩。隔壁聞女人。釵璫環釧之聲。起於一微。念慾之心。雖身不交會。卽犯菩薩戒」矣＝T12n0374『大般涅槃經』p0549a21「於壁障外。遙聞女人。瓔珞環釧。種種諸聲。心生愛著。如是菩薩。成就欲法。毀破淨戒」

0746 經云「心垢則衆生垢。心淨則衆生淨」＝T14n0475『維摩詰所說經』p0541b18「心垢故衆生垢。心淨故衆生淨」

0748 『無行經』云「若人欲成佛。勿懷於貪欲。諸法卽貪欲知。是卽成佛」矣＝T15n0650『諸法無行經』p0751a18「若人欲成佛　勿壞於貪欲　諸法卽貪欲　知是則成佛」

0748 華戲菩薩云「有人聞離聲則喜。聞婬欲聲則碍。不學佛法也」＝T15n0650『諸法無行經』p0758a23「佛告華戲慧菩薩。若菩薩聞。貪欲音聲。生過罪想。聞離貪欲音聲。生利益想。卽是不學佛法」

0753 經云「不捨八邪。得八解脫」矣＝T14n0475『維摩詰所說經』p0540b06「若能不捨八邪。入八解脫」

0754 論云「解者卽一切法正。不解故卽一切法邪」＝T15n0586『思益梵天所問經』p0036b22「又網明。一切法正。一切法邪。網明言。梵天。何謂一切法正。一切法邪。梵天言。於諸法性無心故。一切法名爲正。若於無心法中。以心分別觀者。一切法名爲邪。一切法離相名爲正。若不信解達是離相。是卽分別諸法。若分別諸法。則入增上慢。隨所分別皆名爲邪」

0756 論云「是眼則不能。自見其體。若不能自見。云何見餘物」＝T30n1564『中論』p0006a06「是眼則不能　自見其己體　若不能自見　云何見餘物」

0771 『無行經』云「貪慾恚瞋癡。無有能得者。是法皆如空。知則成佛」矣＝T15n0650『諸法無行經』p0751a20「貪欲及恚癡　無有能得者　是法皆如空　知是則成佛」

0798 論云「諸法不自生。亦不從他生。不共不無因。是故知無生」也＝T30n1564『中論』p0002b06「諸法不自生　亦不從他生　不共不無因　是故知無生」

0798 經云「其生法爲。先有竟生。先無竟生」＝不明

0801 經云「終日生如無有生。終日滅如無有滅」也＝不明

0809 「相」＝「如」（経文では如とするもここでは相という。大正蔵では甲本は「相」である）

0813 經云「非眞實義。在於言說」＝T16n0670『楞伽阿跋多羅寶經』p0489a13「非眞實。在於言說」

0813 「言語文字。皆解脫相」也＝X18n0338『維摩羅詰經文疏』p0655b04「言語文字　皆解脫相」

0814 「說」＝「諸」

0816 論云「以知法性。無慳恡故。隨分行檀波羅蜜」＝T32n1666『大乘起信論』p0581a19「以知法性體。無慳貪故。隨順修行檀波羅蜜」

0817 「資生壇。無畏壇。法施壇」＝この三壇は T25n1512『金剛仙論』菩提留支訳に出ている。

0833 「倒」＝「到」

0834 論云「以知法性。離諸過故。隨分行尸波羅蜜」＝T32n1666『大乘起信論』p0581a20「以知法性。無染離五欲過故。隨順修行尸波羅蜜」

0839 『無行經』云「若人分別戒。是則無有戒。若有見戒者。是則名爲失戒」＝T15n0650『諸法無行經』p0751b15「若人分別戒　是則無有戒　若有見戒者　是則爲失戒」

0842 論云「以知性無瞋恚。故隨分行羼提波羅蜜」＝T32n1666『大乘起信論』p0581a22「以知法性無苦離瞋惱。故隨順修行羼提波羅蜜」

0847 經云「若於忍辱音聲生利想。於瞋恚音聲生碍想。此則不學佛法」＝T15n0650『諸法無行經』p0758b04「若於忍辱音聲生利想。於瞋恚音聲

生礙想。則是不學佛法」

0849 論云「以知法性。常無懈怠。隨分行毘離耶波羅蜜」＝T32n1666『大乘起信論』p0581a23「以知法性無身心相離懈怠故。隨順修行毘梨耶波羅蜜」

0854 經云「若無增上慢。佛説婬怒癡。性卽解脱」矣＝T14n0475『維摩詰所説經』p0548a17「若無增上慢者。佛説婬怒癡。性卽是解脱」

0856 經言「若於精進音聲生利想。於懈怠音聲生碍想。則不學佛法」＝T15n0650『諸法無行經』p0758b06「若於精進音聲生利想。於懈怠音聲生礙想。則是不學佛法」

0860 『持心經』云「身無所起。心無所起。卽勞強精進心」＝T15n0586『思益梵天所問經』p0057a24「身無所起。心無所起。是爲第一。牢強精進」T15n0585『持心梵天所問經』と『思益梵天所問經』とは同本異訳と言われる。あるいはT15n0587『勝思惟梵天所問經』p0091a08「身無所起。心無所起。是爲第一。堅固精進」が典拠か。T15n0580『持心梵天所問經』竺法護訳にはこの句は出てこない。

0865 論云「以知法性。常無動亂。隨順行禪波羅蜜」＝T32n1666『大乘起信論』p0581a24「以知法性。常定體無亂故。隨順修行禪波羅蜜」

0867 經云「諸三昧數者。量是小乘出入定也」＝不明

0875 論曰「何名爲佛。常心爲佛。何名爲菩薩。常定心爲菩薩」＝不明

0877 經云「雖種種讃歎禪定。而知一切法。是常定相」矣＝T15n0650『諸法無行經』p0751a03「雖種種讃歎禪定。而知一切法。常定相」

0880 『法性論』云「以智性常無碍。故隨分行般若波羅蜜」＝「(盧山)遠法師作『法性論』」でも釋慧通の『法性論』でもない。

0892 『淨名經』云「法隨於如。無所隨故。法無動搖。不依六塵故」＝T14n0475『維摩詰所説經』p0540a12「法隨於如。無所隨故。法住實際。諸邊不動故。法無動搖。不依六塵故」

0893 「設至於地獄。加諸罪垢。及至畜生。無有無明」＝T14n0475『維摩詰所説經』p0549a03「至于地獄。無諸罪垢。至于畜生。無有無明」

0906 「斯」＝「此」

0907 「卽」＝「則」

0915 「斯」＝「此」

0924 經云「非眞實義。在於言説」也＝T16n0670『楞伽阿跋多羅寶經』p0489a13「非眞實。在於言説」

0926 經云「其説法者。無示無説。其聽法者。無聞無得」＝T14n0475『維摩詰所説經』p0540a18「夫説法者。無説無示。其聽法者。無聞無得」

0929 「堅而且利」＝T33n1699『金剛般若疏』吉藏撰 p0088c10「堅而且利」

0933 「心空如幻」＝T16n0657『華手經』鳩摩羅什訳 p0141a28「心空如幻」

0967 「非」は「悲」

0976 經云「如來身者從眞實生從三明生從六通生從無量清淨法生」＝T14n0475『維摩詰所説經』p0539c01「佛身者卽法身也。從無量功德智慧生。從戒定慧解脱解脱知見生。從慈悲喜捨生。從布施持戒忍辱柔和勤行精進禪定解脱三昧多聞智慧諸波羅蜜生。從方便生。從六通生。從三明生。從三十七道品生。從止觀生。從十力四無所畏十八不共法生。從斷一切不善法集一切善法生。從眞實生。從不放逸生。從如是無量清淨法生如來身」

0976 『涅槃經』云「如來者。從六波羅蜜生。從三十七道品生。從十一空生。來至涅槃」＝T14n0475『維摩詰所説經』p0539c01「佛身者卽法身也。從無量功德智慧生。從戒定慧解脱解脱知見生。從慈悲喜捨生。從布施持戒忍辱柔和勤行精進禪定解脱三昧多聞智慧諸波羅蜜生。從方便生。從六通生。從三明生。從三十七道品生。從止觀生。從十力四無所畏十八不共法生。從斷一切不善法集一切善法生。從眞實生。從不放逸生。從如是無量清淨法生如來身」

0985 論云「諸天之中。諸地之內。其中人物。號曰世間」＝不明

0988 經云「此土衆生。剛強難化故」＝T14n0475『維摩詰所説經』p0552c27「此土衆生。剛強難化故」

0989 「譬如象馬。［忄＋龍］戾不調。加之楚毒。乃至徹骨。然後調伏」＝T14n0475『維摩詰所説經』p0553a13「譬如象馬。［忄＋龍］悷不調。加諸楚毒。乃至徹骨。然後調伏」

0989 「調伏之方。略標其四。一者～此如觸其毛。二者～如觸皮也。三者～如觸其宍。四者～如此觸其骨也」＝T12n0374『大般涅槃經』p0469b01「復次善男子。如御馬者凡有四種。一者觸毛。二者觸皮。三者觸肉。四者觸骨。」

1002 「衆生之類。是菩薩淨土也。發菩提心。是菩薩淨土。菩薩成佛時。菩提心衆生。來生其國」＝T14n0475『維摩詰所説經』p0538a21「衆生

之類。是菩薩佛土」p0538b03「菩提心是菩薩淨土。菩薩成佛時。大乘衆生。來生其國」

1014 「已」＋（訖）

1040 「聞」以下二十四字行間書き込み。

1053 經云「若人聞此章句。能生信心。以此爲實者。當知是人。不於一佛二佛三四五佛所。而種善根。已於無量百千佛所。殖於善根」＝T08n0235『金剛般若波羅蜜經』p0749a29「於此章句。能生信心。以此爲實。當知是人。不於一佛二佛三四五佛而種善根。已於無量千萬佛所。種諸善根」

1062 「怠」＝「急」

1082 （此）＋「經」

1089 『究竟經』云「行佛行者。行如佛行。心如佛心」＝不明

1124 論云「性淨之理名之爲法」＝「性淨之理目之爲法」四稱法行の説明として『少室六門』・『景德傳燈錄』等に出ている。

1130 「法無衆生。離衆生垢故。法常寂然。滅諸相故。法隨於如。無所隨故」＝T14n0475『維摩詰所說經』p0540a04「法無衆生。離衆生垢故」a06「法常寂然。滅諸相故」a12「法隨於如。無所隨故」

1135 百陽歎曰「常善救人。而無棄人。常善救物。而無棄物」＝T52n2111『十門辯惑論』p0553a06「老子曰。常善救人。故無棄人。常善救物。故無棄物」

釈文および校異・註の作成にあたっては龍谷大学世界仏教文化研究センター「西域総合研究班」「大谷探検隊将来文字資料の調査研究」グループの研究員、および研究会に参加された諸氏の協力を得た。

本稿の掲載にあたっては、研究対象とした写本資料の所蔵機関である公益財団法人武田科学振興財団「杏雨書屋」の許可を受けた。掲載を快諾いただいた、杏雨書屋様に盡深の謝意を表します。